



268 (21)



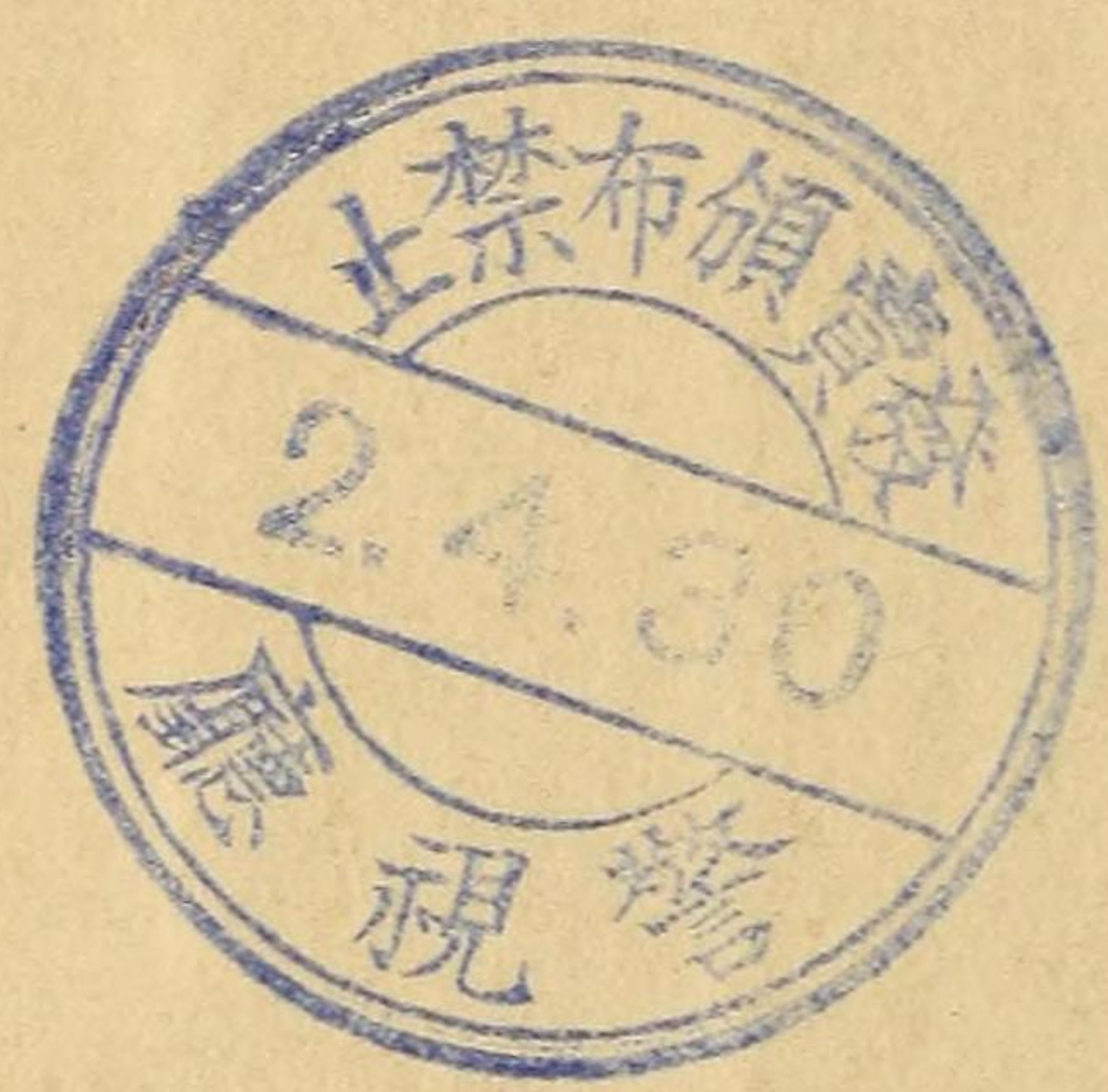
Bukharin, Nicolaï
Ivanovitch

昭和二年四月

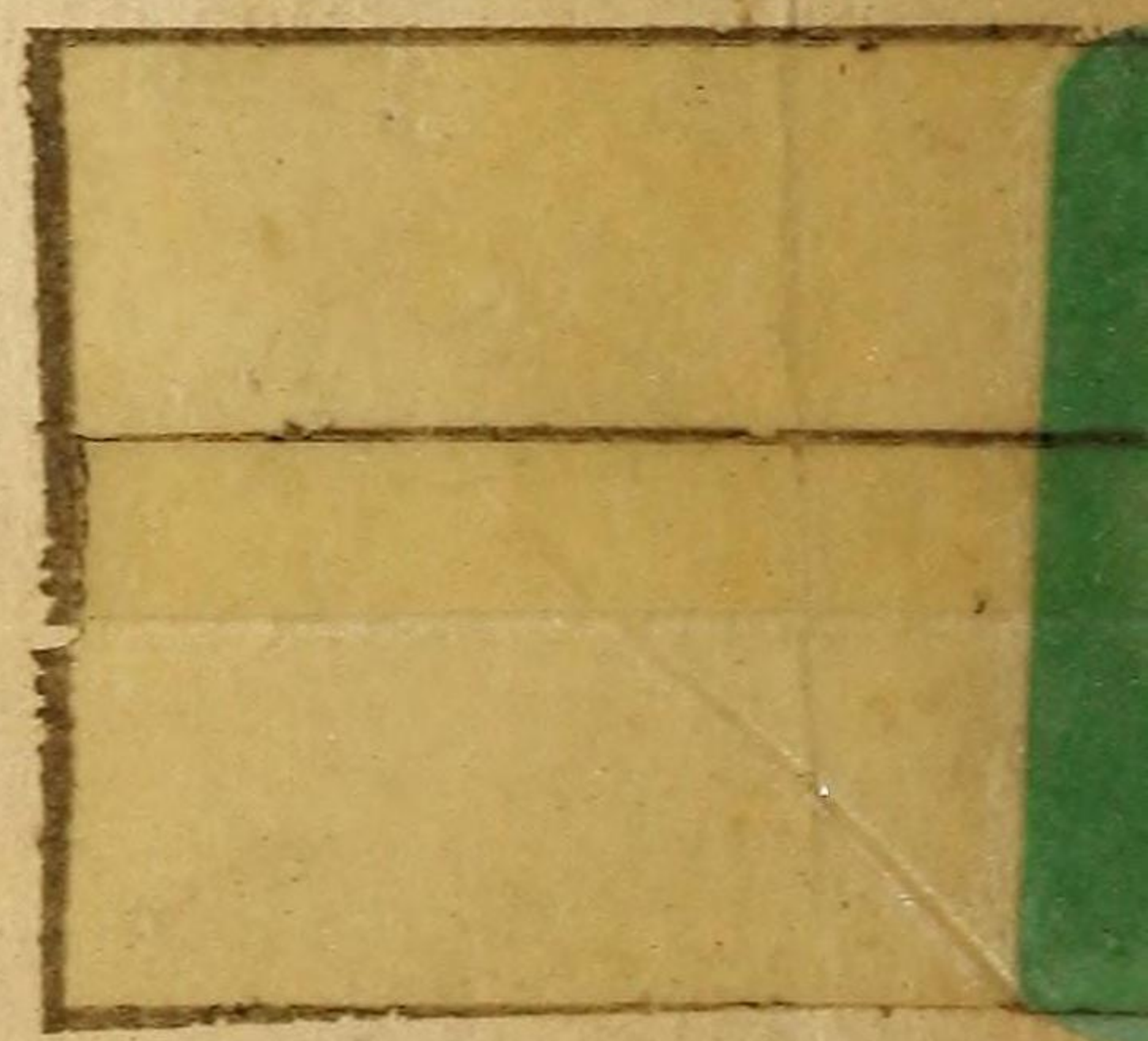
日露協會報告第二十四號

ソヴエート聯邦の國際關係並に國內狀勢

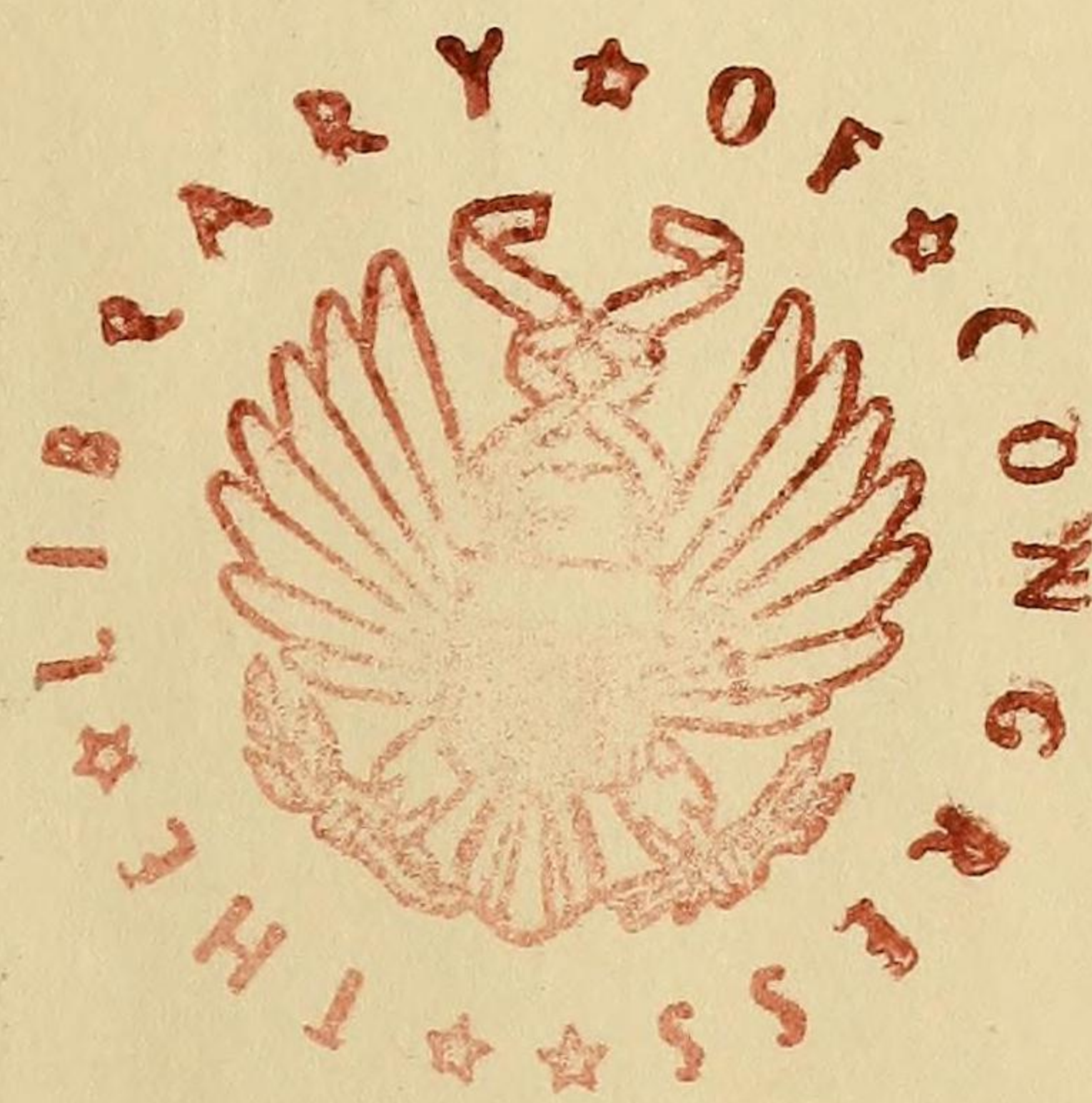
—ブハーリン氏演說—



日露協會



函	安
號	53
永久保存	



99-429420

緒言

ロシヤ共産黨最高幹部の一員たるブハーリン氏は、本年一月モスクワに於て「ソヴェート聯邦の國際關係並に國內狀勢」と題する演説を爲した。その速記がイズヴェスチヤ紙及びプラヴダ紙に發表されたが、興味あるものと思ふから、翻譯上梓することにした。

昭和二年四月

日露協會

DK267

.3

1927

Asian

Japan

Case

目次

第一	貿易と革命の恐怖。攻撃の準備	一
一	市場と利益。所謂「ロシヤ問題」	一
二	ソヴェート聯邦は世界革命の溶爐	七
三	獨逸の動搖と英國の戦争政策	九
四	社會民主黨員から帝政主義者まで	一八
五	平和政策とプロレタリアートの國防	二五
第二	敵の包圍中に於ける建設	三七
一	世界經濟に於ける社會主義と資本主義	三七
二	長足の進歩	四六
三	社會主義の建設的基礎の發達	五一
四	富農問題	五七
第三	成長の困難	六七

一	村落の改造と失業者問題	六七
二	工業と其の原料産出地	七三
三	物價政策	七五
四	獨占的供給について	八一
五	勤勞者たる消費者への奉仕	八七
六	官僚主義との鬭争	九三
第四		
	階級的仇敵を追撃して	九九
一	ネップマンとクラークに對抗すべきプロレタリアートと 其の同盟者	九九
二	プロレタリアートの團結	一〇四
三	共産黨はインターナショナルの先頭部隊	一〇六

一九二七年一月十二日モスクワ縣共產黨會議に於て

ソヴェート聯邦の國際關係並に國內狀勢

ブハーリン氏演説

第一 貿易と革命の恐怖。攻撃の備準。

一 市場と利益。所謂「ロシヤ問題」。

我ソヴェート聯邦に對する資本主義諸國の態度が、二個の主要なる因子に依つて決定せられて居ることは久しき以前より知悉された明かな事實である。その第一の因子は、假令それが相對的なものであるにもせよ、資本主義諸國は我ソヴェート聯邦と貿易關係を持つべき必要に迫られて居ることであり。第二の因子は、ソヴェート聯邦が、被抑壓民族解放の植民地革命をも含むプロレタリアート

一 市場と利益。所謂「ロシヤ問題」。

世界革命の過程を、煽動し支持し組織する最も優勢な力であるといふことに對する恐怖である。若しも斯る狀勢が、吾人を包圍して居る資本主義諸國と、吾人と接觸する在り存續するものとすれば、ソヴェート聯邦が發展期に入つた現時に於ては殊に、叙上の二因子と資本主義諸國の此の二因子に對する矛盾は從前よりも一層の鋭さを現すであらう。此の事は現時の資本主義世界に於て根本的に重要な經濟問題は、市場問題であるといふことに依つて説明される。市場問題は最近吾人が屢々論じたるが如く、主要なる資本主義諸國に於て、其の部分的安定を維持せんとする途上に、横はる重要な經濟問題である。

凡有る資本主義國家の狀態を一瞥すれば、その生産品販賣市場の開拓、原料品産出地の獲得、過剰資本投下の爲の新勢力範圍の發見が如何に緊要切實なる問題として彼等の前に展開しつゝあるかを、容易に看取する事が出来るのである。例證として帝國主義的的最大國北米合衆國を擧げるならば、其處には半壟斷的黃金時代が出現して居る。資本は洪水の如く横溢せる有様で、國內の自由資金は此の國資本主義發達の前提時代を遙かに凌駕した莫大の額に達して居る。

然しながら他方、棉花の値段は未曾有の暴落を來たして居り、凡有る手段を以て、新市場の開拓發見に努力せざるを得ざる状態である。而して此の棉花の生産過剰は、應て現時の世界經濟に影響を及ぼす一つの甚大且つ重要な現象たるべき事は、言ふ迄もない。

又ヨーロッパ諸國に於ても、産業機關の生産能力は、益々増大しつゝあるにも拘らず、國內の市場は極端に壓縮せられて居る事實を目撃するのであるが、その結果は必然的に企業の萎縮を招來するであらう。資本主義諸國に於ける前述の状態は直ちにブルジョアジーをして、その全力を傾倒して適當なる切抜策を講せしむべく促進したのである。その切抜策は労働階級に對する搾取の追加、生産過程の合理化、其の集中、並にトラストの形式による大企業の合同といふ途を進みつゝある。而して企業の合同や集中は、資本主義經濟の埒内に於て、容認せらるべき市場の計畫的割當に依つて、或程度まで補足せられるのであるが、市場の割當に關するトラストの商議は屢々民族的資本主義の範圍を飛び越えて行はるゝ。現に吾人は幾多の國際的カルテルや國際的トラストの成立を見た。

その第一に數ふべきは製鋼カルテルであつて、その組織中には、事業の核心として、獨佛の工業家が多數に這入つて居る。

世界各國が市場の獲得に焦慮しつゝある時、吾人は諸國の見る所謂「ロシア問題」について考察しなければならぬ。それは資本主義的ブルジョアジーが現時のロシアに就いて如何なる考へを持つて居るか、又今後彼等は如何にして吾人と關係を結ばんとするかの問題である。余は彼等の眼光に映じたるロシア問題を説明せんが爲に、獨逸工業家として有力なる、電氣會社聯合會(AEG)會長デイチ氏が、昨年十月下旬、獨佛情報協會々議の席上に於て爲した演説を此處に紹介する必要がある。此の獨佛情報協會には、獨佛兩國の最も勢力ある實業家や、有數の學者、文藝家が會員となつて居り、獨佛間の接近に關する問題、殊に兩國の經濟問題について、豫め種々論議を試みるのがその任務である。デイチ氏の演説中我ソヴェート聯邦に關係した部分は、非常なる興味を吾人に與へるものであるから、その要點を述べれば、

(一)吾人はロシアと立派に事業をやつて居る。

(二) ロシヤの吾人に對する支拂ひは正確である。

(三) 若し吾人、即ち佛蘭西人及び獨逸人が發達しつゝある現時のロシヤ工業に對して、財政的援助を爲さぬならば、合衆國は直ちに吾人に代つて援助を爲すに躊躇しないであらう。

(四) ロシヤの天然資源は無限であつて、恰も亞米利加のそれに髣髴たるものがある。

(五) 此等無限の天然資源は大に利用開發されるであらうが、それは非常に遠い將來のことである。何となれば、ロシヤが生活必需品を生産すべき諸工業の復興を實現するとも、「最良の商品」(ドイツ氏は生産要具を指して居る)は從前の如くヨーロッパから輸入せらるゝであらうから。

即ち獨逸のブルジョア、少くとも電氣會社聯合會長ドイツ氏を以て、代表せられて居る一部のブルジョアの計畫に依れば、吾人が生産要具を自給し得る時機に到達するまでは、獨逸製品はソヴェート聯邦内に於て、大なる市場を開拓することが出来るものと期待して居るのである。

デイチ氏の演説は、論旨頗る明確である。それは平和的な商業と經濟關係の確立に於て、ロシヤに對し他の何れの國よりも、多くの興味を有して居る所の獨逸ブルジョアジが、ロシヤより何物を得んと欲して居るか、又將來吾人との關係に於て如何なる地位を占めんとして居るかの問題について、可なりの確なる觀念を吾人に與へる。現在西歐諸國は勿論のこと、合衆國に於てさへも、市場問題は最も眞剣に研究せられて居るのであるから、此等資本主義諸國が、ソヴェート聯邦内にその過剩資本を投下し、第一着に自國商品の販賣市場を求め、又將來に於ては我國より原料品の供給を仰がんと試み、之に向つて努力を惜まぬことは明かである。而かも此の計畫たるや、只だ現在のみの立場からではなく、必ずや遠き將來を慮つて實行を期して居るであらう。若しも現時外國に於て尙ほソヴェート聯邦に對する憎惡者があり、ロシヤの國情は依然として破壊を繼續しつゝありと考へる狂妄者があるとしても、その國家に於ける支配階級は經濟知識を有する報告者の調査を根據として、ロシヤは決して世評の如きものではないといふことを明確に知悉して居ると同時に、彼等は近き將來ロシヤの

産業が必ず大いに勃興すべきことを豫見し、従つてロシアは西歐諸國より供給せらるべき商品、殊に工業の施設に要する機械類の大需要者たるべきことをも知つて居るのである。

二 ソヴェート聯邦は世界革命の溶爐。

外國のブルジョアジ―は將來ロシアと盛んに貿易を行ひ利益を得んとする豫想を有するけれども、又他面、ブルジョアジ―の見地から、ソヴェート聯邦は世界革命の援助者として、有勢なる力であるといふことを考へ、憂鬱なる豫想を抱いて居る。尤もブルジョアジ―の或る部分に於ては、吾人の「變質」即ち「資本主義化」に對して尙多くの期待をかけて居るのは事實である。而して此の期待は、吾が幹部反對派の進出と共に、一層の光輝を發してブルジョアジ―社會に燃え上つた。さりながら彼等にとつて残酷なる事實は引つ切り無しに出現した、その結果彼等は餘儀なく甘い空想を棄てた。即ち資本主義諸國包圍の中にあるソヴェート聯邦の革命的役割を認識する意味に於て、我が中央委員會と同一意見(自己流の解

釋で)になつた。勿論現在行はれて居る支那革命の進展や、其他一般に東洋に於ける民族解放運動に對するソヴェート聯邦の偉大な勢力を見逃す譯には行かぬ。又英國に於ける炭坑夫罷業に際しては、他の何れの労働階級も立たなかつたのに、我が労働階級は——我が國は労働者獨裁の國家であるから——敢然立つて援助を惜まなかつた事實を隠す譯には行かない。更に又最も廣汎なる西歐の労働階級は、自己の代表者をロシヤに派遣し、ロシヤは眞に社會主義建設の溶爐であると信じて居る事實を否定する譯には行かない。すべて此等の事實を綜合してブルジョアジ―は確定的な感動を受けた。彼等は吾人に關して二様の矛盾したる印象を持つて居る。一方の側より見ればロシヤは廣大なる彼等の市場であり、あまつさへ以前に比較すれば、より、誘惑的であるから、將來に於て其の商品を我國市場に充満せしむべき、可能性あることを豫見して居る。然し他方に於ては現在行はれて居る支那の革命運動や、全世界に於ける廣汎な労働階級のソヴェート・ロシヤに對する同情や、我等の英國炭坑夫に對する援助などが、恰かもソヴェート・ロシヤは虐げられたる民衆の全世界的醗酵室であるかの如く、非常

に鋭敏にブルジョアジーの鼓膜に響いて怖れを抱かして居る。斯の如き矛盾は過去にも有つたし、今も残つて居り、ソヴェート・ロシヤが資本主義諸國に取り圍まれて存在する限り、繼續するであらう。即ち貿易と革命、此の二者の間を徘徊する逡巡は、過去に有つたし、又將來も残るであらう。

三 獨逸の動搖と英國の戰爭政策。

諸君も良く知らるゝ如く、獨逸は嘗て吾人に對して最も平和的な傾向を持つて居つた。獨逸が帝國主義諸國から、壓迫や虐待の痛苦をなめさせられ、直接的強奪に遭遇したことは、獨逸をして吾人に對し平和的傾向を持たしめた最大原因であつたに違ひない。獨逸が斯の如き窮迫の状態に在つたのであるから、吾黨初め凡ての共產黨は當然斯かる帝國主義的壓迫から獨逸を救ひ出し、之に向つて援助を與へようと考へたのであつた。同志レーニンはまだ帝國主義的大戰の最中に將來の豫言を爲して曰く、「此の大戦は帝國主義の繁榮せる或る國の破壊に依つて終局を見るであらう、而して此の國民は、ブルジョアジー的制度を

保持するとしても、彼等が戦争中にあつた状態とは、主義に於て遙に異なつた他の状態に陥るであらうと。斯の如き機會に遭遇すれば、今度は帝國主義的支配に反抗して民族的解放を目標とする戦争の可能性があるとレーニンは考へて居たのである。思ふに、此の如き事實は大戦の終局後獨逸に起つたのであつた。であるから我ソヴェート政府は極力、此の迫害せられたる獨逸に同情を表し、又凡ての共産黨は當然獨逸を支援したのであつた、それは當時必要のことであつたからである。如何となれば獨逸は全く孤獨に陥り、然も其の對外政策は何等帝國主義的利益を求むるものでなく、又何等帝國主義的傾向を帯びたものでなかつたからである。然るに若し獨逸に於けるブルジョア政治家の或者や、社會民主黨員や、共産黨極左翼の背教者等が、吾人の對獨援助問題を以て、吾黨の墮落、失敗の例證として、非難せんとするならば、余は此の壇上より彼等に向つて我國の共産黨及び共産黨によつて指揮せられて居るソヴェート國家は、如何なる時と如何なる場所とを問はず、常に虐げられたる凡てのものゝ味方であるといふことを繰返へして聲明しなければならぬ。よしんばそれがブルジョアジ

一の國家であつたとしても、凡有る方面より帝國主義的掠奪の慘害を蒙りつゝある場合、吾人は之に向つて援助を與ふるに躊躇するものではない。

勿論現在に於ける獨逸の狀勢は全く従前と異なつて來た。獨逸は現在數年來の苦境を脱却することが出來、帝國主義政策の客體ではなくなり、或る程度まで主體となつて、帝國主義的な外交場裡に於て積極的に活動する一つの強國となつた。獨逸はその發達の前提時代に於ては、國內諸事情が我國の支援を求めた關係上、西歐諸國から全く切り離された孤獨の狀態となつて居つたのであるが、現在に於ける獨逸の立場は著しく變化して來た。獨逸は可なり斷然と其の注意を西方へ轉廻した。而して此の如き轉廻の經濟的根據を爲したものは、亞米利加の資本に依つて、著しく良果を結んだ獨逸の増大せる經濟力であつた。獨逸は今や東方より首を西方へ廻らし、帝國主義的諸國と完全なる協調を遂げながら、そのコンサートに参加して居るのである。併しながら此の意味は、我國との間を結ぶ凡ての關係の糸を、獨逸が斷ち切つたといふのではない。如何となれば、新たに帝國主義的國家となつた獨逸の狀態は、痛切に市場問題につ

いて苦んで居ること、戦勝者から與へられた榨しめぎの爲めに苦んで居る點とに於て、他の帝國主義諸國家の狀態と自ら異なつて居るからである。市場を外國に求めんとする問題は現在の獨逸にとつては實に切實なものである。その經濟界は前古未曾有の不景氣の爲めに多大の痛苦を嘗め、工業の萎縮と慢性的失業者續出によつて苦しむこと茲に數年である。併しながら斯の如き疾病も纏て獨逸の資本主義に依つて漸次治癒せられるであらう。如何となれば獨逸の資本主義は、生産の合理化に大成功を擧ぐる優秀なる企業を按排管理することを能し、凡有る學問や技術を直に生産に應用するからである。

併しながら獨逸は現在自國經濟界の不況に苦しみつゝある一方、今日に至るまでも尙ヴェルサイユ條約に依る重荷を負擔させられて居るのであるから、勢ひ其の政策は近き將來動搖を免れぬであらう。現時獨逸に於けるブルジョアジの大部分のものが我ソヴェート聯邦に對して妥協的傾向を帯び來つたことも亦當然の結果であると考へられる。

之を要するに、現今の獨逸は戦後著しく疲弊したとは言へ、我國に對して比

較的多くの妥協性を持つ、他のブルジョアジー國家と同様な態度を持してゐるといふことが出来る。

ソヴェート聯邦に對する獨逸の態度と正反對なのは英國である。英國は最近二つの方面から多大の打撃を蒙つた、今尙ほ蒙りつゝある。それは現在勢ひ猖獗を極めて居る支那の革命からと自國內の勞働階級からとである。此の打撃は現に大英帝國の傳統たる保守的制度を益々大きく、愈々大膽に破壊して居る。

此の事態は、我ソヴェート聯邦の強大なる勢力と關聯して、遂に英國をして我等に對するブルジョアジー第一線の闘士たらしめた。最近東洋に於ける革命運動が著しく擡頭し始めた時、支那革命が東洋諸民族に對して、偉大なる影響を及ぼすに至り、國民軍の進行曲が列強の首都のみならず、全世界の隅々までも轟き渡つた時、英國は判然と吾人に對して敵對的態度を表明するに躊躇しなかつた。その結果、現在吾人は凡有る方面からの包圍中に存在して居る。即ち外交的包圍や、軍事的包圍や、其他英國政府が出来得る限りの陰謀に依り、形成した包圍の中に存在して居る。今日まで幾多の外交條約並に軍事協定は皆英國の

援助、仲介、指導によつて締結せられたのである。具體的例證を擧ぐるならば、ルーマニヤ伊太利條約、ルーマニヤ佛蘭西條約、波蘭ルーマニヤ條約、波蘭チェツク・スロワキヤ條約、波蘭ユーゴ・スラヴィヤ條約並にバルチック沿岸諸國の外交官、參謀將校會議の如きは、皆一として英國の發意によらざるものなき有様である。

又波斯やアフガニスタンに於ける英國の行動は明かに反露的のものであり、更に最近支那に於ける英國政府の血なまぐさい侵略的策動も亦明かに反露的のものであることは、英國諸新聞が毫も否定して居ない。以上に述べた所によつて、如何に英國が我ソヴェート聯邦を包圍するに汲々たるかを知ることが出来る。而して此の包圍作業の頭に立つて居る者は、その鼓吹者として又財政的支持者としての英國ブルジョアジ―と英國政府とである。今や吾人に對する軍事行動の準備は、英國保護の下に着々進行して居る。波蘭に於ては既に猛烈に戦争準備を爲しつゝある。ルーマニヤは最近伊太利に於いて(伊太利は英國と密接なる關係にある)、その軍需品の註文を保障するが爲に、數億リラの借款を起したと同

時に、英國専門家の援助によりコンスタンツァに海軍根據地を設けんとして居る。又英國はウランゲル軍(白軍)に財政的援助を與へて居り、ウランゲル軍は今尙ほ自己の軍隊を有して、ソヴェートに對し他日の機會を狙つて居る。

以上述べ來つた如く、我ソヴェート聯邦に對する英國の政策は、極めて侵略的なものであり、且つ積極的に反感強きものである。

之に反しプロレタリアート獨裁の我政府の執る政策は、現在に於ても、過去に於ても又將來に於ても、平和政策より他には何物もない。吾人は過去數年に亘つて、幾多の平和保障條約を締結した。土耳其との條約やリトワとの條約がそれである。又バルチック沿岸諸國に提示した條約の基礎案も、皆平和の欲求に外ならない。然るに吾人の平和政策に對する答としては不都合なことであるが、最近リトワ國に於ては、ファシストの手によるクーデターが勃發し、我政府が接壤諸國と締結した現行保障條約の一つを破壊した。

勿論リトワ國クーデターの意味は、國內のプロレタリアートに科する刑罰に依つてくみ盡されるものではない。此の如き刑罰は政府當局者に對するプロレ

タリアートの反抗、不満をして益々増大せしむるばかりである。——リトワ國ク
 ーデターの意味は遙かに深刻なものである。此の恰も民族主義的に見ゆるク
 デターの背後には、波蘭のピルスキ將軍が控へて居る。彼は最近著しく
 ファシスト運動の盛んになつたリトワを併呑せんとして劃策怠りない、波蘭は以
 前より此の一角に垂涎して居つたのである。而して今回波蘭がリトワ國クーデ
 ターに参加し、後援を惜しまなかつた有力な原因は、クーデターの領袖連が皆
 リトワの國籍を有する歸化波蘭人であつたからである。彼等は愛國者の假面を
 被り、クーデターによつてリトワの地主たらんとすると同時に、リトワ國に於
 ける波蘭勢力の先行者たる役割を演せんとして居るのであつて、そのことは最
 近彼等が頻りに己れの姓の語尾を、リトワ風に變更した事實に徴しても明かだ
 ある。

更に、波蘭の背後には、英國が控へて居つたのであるから、リトワ國クーデ
 ターに於ける最も主要なる指揮者としての名譽は、英國自身に歸したのであつ
 た。併しながら茲に最も驚くべきとは、(此の事實に就ては未だ我新聞に何等公
 表せられて居らぬと思はるゝ)或る若干の報告によれば、獨逸も亦リトワ國クー

デターに關係し、然も積極的に行動したといふ事である。所謂デモクラシーの獨逸と雖も日々増大する波蘭の勢力を見て、恐怖したであらうことは疑ひない。故に之が對抗策として、リトワ國內に、一定の立場を設け、その勢力を維持せんとする目的上、波蘭と同じく、クラーデターに參加したことは明かである。此の點より見るときは、獨逸も亦波蘭や英國政府と同じく、新に組織せられたリトワ國政府の手によりて實行せらるべきファシスト的種々の罪惡に對して連帶の責任を負はなければならぬ。リトワ政府が今後ファシスト的罪惡を重ねることは却つて吾人の望むところである(笑聲)。此の種のクラーデターはバルチック沿岸の他の諸國に於ても、同様に起り得る。現に吾人はラトヴィヤやフィンランドに於ても、リトワクラーデターと同様なるクラーデターを實現せしめんが爲めに、夫れ々々準備に汲々としてゐるとの情報に接して居る。且つ彼等は現在最も擯斥すべきファシスト的卑劣手段を以て、ソヴェート聯邦の包圍に熱中し、我國內に於ける社會主義の建設に向つて極端なる妨害を試みてゐる。最後に余はピルストスキーが自己のプログラムとして、「東方への發展即ち第一着に我國を目標とする波蘭の

擴張に關して、その所信を公々然と全世界に發表してゐることに諸君の注意を喚起する。

四 社會民主黨員から帝政主義者まで。

更に吾人はソヴェート聯邦に向つて、開始されんとする戦争の思想的準備が、今全歐洲に亘つて公然と行はれつゝあることを牢記せねばならぬ。此の準備は可なり大仕掛けに行はれて居り、ソヴェート反對の宣傳は、異常な努力を以て、大衆の間に放たれて居る。彼等は所謂「ソヴェートの爆彈」といふ標語に極めて憎惡的な意義を附加して、ソヴェートに反對せしむべく、大衆の思想的總動員を企てゝ居るのである。抑も「ソヴェートの爆彈」といふ言葉は最初英國の自由黨機關新聞たる「マンチェスター・ガーヂャン」紙上に使用せられて以來、一般に通用するに至つたのである。ソヴェート聯邦は彼の獨逸「エンケルス」會社と契約を爲して居り、「エンケルス」會社は腸詰を製造するのではなく、盛に飛行機の製作に従事して居るといふことに原因して發生したものと考へられる。吾人は「エンケルス」會社と契

約したことを、隠すものではない。否、決して秘密にはしてゐなかつたのである。多數の飛行機は同會社に於て製作されたし、又現に製作中である。吾人は此の機會に於て、我ソヴェート聯邦は如何なる資本主義國家と雖も、之を利用するに躊躇するものではないといふことを斷言して憚らない。若し資本主義國家が吾人に向つて適當なる指導者を派遣し、相當な代償を以て、飛行機其他國防に必要な武器を我國内に於て製作すべく提議するならば、吾人は喜んで之を歓迎するであらう。我國は軍備の比較に於て、他の如何なる強大國よりも劣勢であるとは云へ、現時他の列強が軍備充實に日も尙足らざるが如き有様である時に當り、獨り自ら武装を解除して、敵の爲すがまゝに放任し、社會主義建設に妨害を蒙むるが如き愚物ではない。斯くの如きは決して吾人の採るべき途でなく、又他國から斯くの如き途を採らせようとされても承服するものでない。

吾人の敵はソヴェートに對して、銳意其の齒を研いで居るのであるから、吾人としても此の際、我が國防を最高限度に引上げんが爲めに、凡てのものを利用して努力せなければならぬのである。(拍手)

然り、ブルジョアジーの列強は新たに帝國主義的戦争を起すべく用意して居る。我ソヴェートに向つて包圍を實現せしむべく、極力種々の計畫を爲しつゝあり、更に一步を進めて吾人に對して直接進撃をも敢行せんとして居る状態である。然しながら、現時は千九百十四年ではない。彼等と雖も現在廣汎なる労働階級と農民階級とが、平和を渴望して居る事實を、能く理解して居る。この故にブルジョアジーは、ソヴェート聯邦こそは平和の最大破壊者であるといふ宣傳に熱中して居る。彼等の常套語とするところは、「吾人は國際聯盟を創設した、そして凡有る紛争を緩和しようとして居る、然るに東洋に於ける革命に火を點じた者は誰であるか——ボリセヴィキである。地球の隅々に至るまでも、世界革命を鼓吹した者は誰であるか、——これもボリセヴィキである。又ブルジョアジー的秩序を破壊する者は誰であるか。——これも矢張りソヴェート聯邦の仕業ではないか。」斯の如くソヴェートは世界平和の脅威者であるから、須く掃蕩せなければならぬ。といふのである。これ第二インターナショナルや、社會民主黨や、コムインターナショナル(第三インターナショナル)から除名された共産主義運動の背教者等の立て籠つて

居る陣營である。彼等は現在皆ブルジョアジの走狗であり、ブルジョアジのソヴェート反對運動の支持者である。

諸君は所謂「ソヴェートの爆彈」に關する論議が、現在世間に多大の動搖を與へて居ることを知らなければならぬ。佛國社會主義者の一人であるグルンバッフは、「ソヴェートの爆彈」問題を第二インターナショナルの議題に上せた所ロシヤのメニセヴキを初めとして、獨逸社會民主黨、佛國社會民主黨は、ソヴェートに對する全世界の反感を益々助長せしむるに至つた。事實彼等自身こそ、吾人に對する戰爭の準備者である。而して恰かも物を盗んだ泥坊自身が、逃走しながら他の者を指さし、「泥坊を捕へろ！」と叫ぶのと同様な卑劣な行き方である。彼等が常にソヴェート聯邦は平和の脅威者なりと言つて居るのは、彼等の主人側より、ソヴェート聯邦に對して爲されて居る戰爭の準備を、辯護せんが爲である。

余は本會議に於て、刻々迫りつゝある戰爭の危機について、諸君の清聽を煩はさねばならぬ。先づ第一に我モスクワ共産黨としては、我國は敵の攻撃に對する何等の保障も持つてゐないといふことを牢記しなければならぬ。話は勿論

今月のことでもなく、又來月のことでもないが、吾人は今春か今秋に關しては保障することが出來ぬ。

近時白系露人の外國在住者や、社會革命黨、立憲民主黨、メニセヴィキー等の機關が非常な活動を開始したのは、戰爭準備の側面的兆候である。さりながら茲には此等癡人たる過去の人々が、ボリセヴィキーの恐怖政治について云爲しつゝある事實に論及せんとするのではなく、彼等の活動は、自ら他の現象に關聯して居るといふことを指摘するに止める。近時外國に於ける彼等の行動が著しく活潑になつた原因は、疑ひもなくソヴェート・ロシヤを包圍せんとするブルジョアジの共同作業に結合した結果である。

又帝政主義者も老朽した紳士、ニコライ・ニコラエウイチをその首領と仰ぎ専ら帝政復活の準備に没頭して居る(笑聲)。彼等は現在も英國の物質的援助により其の組織を更に擴大せんと試みつゝあり、又コザックの間にも準備が行はれて居るとの情報があつた。更に波蘭に於ては種々なる反露的計畫が實行せられんとして居る。其處には我國內の様々なブルジョアジーや地主階級の一團、ウクライナや

白ロシヤの國家主義的白軍や、グルジヤのブルジヤ、メニセヴィキ聯合主義者及び其他の者が屢々會合して計畫を進めて居るのである。それから我黨として最も注意しなければならぬ事は、グルジヤの獨立計畫である。最近グルジヤに於けるメニセヴィキが此の問題を議したる後直ちに可決したる事實に徴するも、如何に本問題が具體化して居るかを知らることが出来るであらう。現今バリーに於てはコーカサス解放協會なるものが、設立せられて居り、その總裁は佛國大佐セワリエであつて、彼はそれに財政的援助を與へつゝ活動を繼續してゐる。彼は嘗つてコーカサスが協商國に占領せられた當時、占領軍の統率者として働いた人物であるが、今やコーカサスに於ける同志を糾合するに努め、コーカサス解放協會の機關雜誌として「プロメテイ」(先見者)を發行して居る。此等同志の手によつて作製せられたプログラムは極めて明瞭なものであり、然かも彼等にとつて確定的なものである。吾人の最も信頼し得べき情報によれば、此の獨立計畫は、波蘭若くはルーマニヤの進出と同時に開始せらるゝか、或はその以前に行はるゝであらうと觀測されるから、此の事に關しては、特にグルジヤ

の我が同志に於て嚴重に監視せられんことを希望してやまないのである。斯して全く四方八方より、即ちルーマニヤの側より、波蘭の側より、將た又諸外國、就中英國に資金の供給を仰いで居る外國居住白系露人の側より、絶えず不安なる徴候の雲は吾人の頭上に漂ひ來りつゝあるのである。されど吾人は決して恐怖する必要はない。何となれば吾人の敵は、ソヴェートとの戦争は冒險的のものであることを良く知つて居り、且つ其の戦争の結果が那邊に到達するであらうかを、的確に理解して居るからである(笑聲、拍手)。併し遠き將來のことは、到底豫斷を許さないのであるから、少なくとも今日、戦争の危機が熟しつゝある消息を會得して置くことは、吾人にとって最も緊要なことである。

吾人の敵は凡有る手段を講じて努力を惜まない、今日接受した外國電報によれば、多數の外國新聞紙上に、ソヴェートは其の西部國境に軍隊を集中しつゝありとの中傷的記事を掲載したとのことである。此の如きは單に一例に過ぎない、吾人の敵たるブルジョアジーは常に凡有る機會を捉へて、虚偽と中傷的な宣傳を爲すに汲々として居るのである。

五 平和政策とプロレタリアートの國防。

今日に至るまで、吾人が銳意實行して來た平和政策は、將來も公然斷乎として繼續して行かなければならぬ。吾人の平和的態度は前述したるが如く、幾多の平和保障條約の締結に依つて明かである。而して最も確にソヴェートの平和政策を列強に知悉せしめたものは、東支鐵道の懸案に關し、張作霖となした交渉であつた。我ソヴェートを悲しむべき危險に陥れんと敢てした張作霖に對して、若し吾人が其の意思さへあつたならば、彼を粉碎することは極めて易々たるものであつたにも拘はらず、ソヴェートは隱忍自重遂にさる行動に出でなかつた。即ちその當時にありても吾人は偏に平和を希ひ、且つ將來に於ても平和政策を實行するであらうといふことを證明したのである。さもあらばあれ吾人の平和政策は、凡有る解放運動に對する吾人の同情を殺滅し去るものではなく、却つて之に對し多大の期待を懸けて居ることと言ふまでもない。吾人は今日まで常に全世界の虐げられたる人々に同情して立つたが、將來も亦彼等の爲に努力する

であらうといふことを繰返して聲明する。吾人は労働大衆の中にある偉大なる革命力を信ずる。吾人は現今支那に起つて居る革命運動の創造力を信ずる。

今や世界に於ける力の闘争、資本と労働、帝國主義乃至國家主義と社會主義の闘争は嘗て見ざる進展を爲して居る。

諸君も今尙ほ記憶するであらう。我國內の階級戦や外國武力干渉時代に於て吾人は單獨で勇敢に戦つたのであつた。勿論當時西歐に於けるプロレタリアトは吾々を支持せんが爲め、所々に革命を起したが、不幸中途にして挫折して了つたのであつた。されど今日の状態は著しく變つて來た。それは西歐に於ける諸強國や亞米利加に於ては、既に部分的安定が得られて居るにも拘らず、吾人が現在二個の歴史的大家實の共存を眼前に目撃して居ること之である。その一は、ソヴェート聯邦が愈々復興期を終り、更に一段進歩せる技術の根底の上に改造せらるべき時期に入つたことであり、この事實はプロレタリアートの國際的闘争をして、益々激烈ならしめた最も有力なる原因を爲して居る。このロシヤ革命發展の新局面は、全世界の歴史的な事件である彼の支那革命に落合つたの

ある。吾人は日々新聞を讀み、日に月に支那革命の進展する有様を熱心に觀察して居る。英國の帝國主義者は支那へ軍艦を派遣したり、陸軍を送つたりして、盛んに胴喝した。然も他の一面に於ては、媚びや諂ひの罫にかけて、廣東の國民政府を捉へんと試みたが、遂に効を奏せずして、彼等は支那から退出されて居る、彼等の有した「神聖」なる租界からさへ放逐されて居る。今や全歐洲と全世界の人々は、支那の労働者が、その革命を壓殺すべく努めた帝國主義者の徒黨に對して、如何に殘酷なる復讐を爲しつゝあるかを目撃して居る。吾人は支那に於ける四億の民衆が、その進行道程に横はる掠奪的な帝國主義と、古き凡てのものを結局一掃するであらうと確信し、多大の期待をかけて居るのである。(拍手)

斯の如く革命の力と資本主義の力との鬭争は、凡ての資本主義國家に於て、部分的安定が樹立せられたにも拘らず、益々其の激烈さを増して來た。諸君！吾人は此の如き狀勢を目撃しつゝあるが故に、茲に再び「我ソヴェート」に對して、外國干涉若くは戦争の可能性があるや否や」といふ自問を設けて、考慮して見な

ければならないのである。而して此の間に對して吾人は答へるであらう、列強は戦争の準備を爲してゐると。其の時機が果して近き將來に於て、到來するであらうか、否かは分明しないのであるが、兎に角列強は戦争の準備を爲して居るのである。従つて吾人としては、これに對抗して吾々の平和政策の宣傳に全力を注がなければならぬ。如何となれば、將來吾々と資本主義國家との間に起り得べき大なる鬭争は、軍事的技術の力によるのみならず、結局、廣汎なる民衆の意志や向背に依つて解決せらるゝからである。併し余は強ち軍事的技術の權威を蔑視して斯の如き言辭を弄するのではない。我國防の堅固を期せんが爲めには、最も眞面目な態度を以て之に當らねばならぬこと勿論である。

吾人は將來に於ても益々平和政策を實行して行くであらう。さりながら、若し吾人に對して攻撃を試みるものありとせば、現代は千九百五年でなく、又千九百十四年でもないといふことを敵に悟らしめなければならぬ。

レーニンは晩年の論文中に「吾々は正に崩壊しつつある西歐の資本主義と東洋諸民族の大衆との中間に立つて居る。東洋諸民族の大衆は、一朝資本主義的平

和にして大恐慌を惹起せんか、直に激浪の渦中に投じて、革命の途に上るであらう。」と將來を卜して書いたが、彼の先見は見事的中した。支那革命の霹靂はレーニンのマルクス式豫言が全然眞實であつたことを證明して餘りあるものであると同時に、資本主義諸國が今我國と開戦するとせば、如何なる時よりも大なる困難に遭遇するであらうといふことを語るものである。然れども帝國主義的ブルジョアジーが革命を恐るゝこと、吾人に對して一定の防止手段を講せんと熱望すること、我國の發展と強固なる建設を怖るゝこと、自國內の労働者に對して恐怖の觀念を有することは、聽てブルジョアジーを、事の總決算に向つて衝き進ましめること必然である。彼等は最初先づ瀨ぶみとして、吾人と地理的に近く住んで居る番犬の一隊に經濟的援助を與へ、之を吾々に差向けて攻撃を加へしめたる後更に種々な行動に出づるであらう。併しながら吾人は決して恐しくないことを公々然聲明する。吾人は平和の一日が吾人に取つて如何に貴いものであるかを他の何人よりもより、良く知つてゐるから、吾人は平和を渴望するから、平和の爲にはよし最後の一人となるも、敢て奮闘努力を辭せないであら

う。吾人の凡ての政策、凡ての外交文書は、斯る平和の熱望に貫かれて居なければならぬ。余は重ねて言ふ、平和を欲して何物も失ふところはない、却つて多くのものを獲得するであらうと。さりながら、吾人は我國の經濟組織改造期に伴うた長き休憩時に於ても、尙且つ共産的プロレタリアートの戦闘部隊たらんことを期して汲々と努めたのであつた。プロレタリアート獨裁を脅かさんとした危険に遭遇した毎に、我が労働階級と、共産黨は間然するところ無き一致團結を以て之に臨んだ。その結果、如何なる敵、如何なる反對者と雖も、遂に我銃劍の前に僻易せざるを得なかつたのである。(拍手)

吾人の同志の中には、屢々斯の如き問題を提出するものがある。恰かも吾人が世界革命を全然思ひ止まつたかの如く考へ、吾人が絶えず世界革命を鼓吹したにも拘らず、其の期待は裏切られて遂にそれは來なかつたから、吾人は今日迄の行動を改めて、他と妥協せなければならぬではないかといふのである。斯の如き質問に對しては、吾人は先づ第一に世界革命は來らざるにあらずして、現に存在して居ると答へねばならぬ。世界革命の觀念は決して一回的のもので

はない。然るに各國同時に世界革命の火の手が擧がるやうに考へて居るのは、甚だしい誤りである。

世界革命なるものは、數十年の將來にも亘るべき一つの巨大なる過程であつて、而かも此の過程は彼の資本主義的世界大戰の開始と共に既に其の展開を始めたのである。此の働きは世界の各國に浸潤した、我國に於ては勞働階級に強固なる獨裁權を掌握せしめ、又中央歐羅巴に在りては帝王の頭上より遂に王冠を打落さしめた。勿論或る時は展開の途上蹉躓に遭遇して、一時進行を中止してゐたこともあつたが、今や再び他の方面より盛に燃えさかりつゝあるのである。若し東洋に於ける支那革命發生の意義を推究するならば、世人は之を以て世界革命の一構成分子なりと認めざるを得ないであらう。即ち世界革命は現に存在せる事實である。世界革命は世界の各國に於て普く遂行せられ凱歌が奏せらるゝときに、始めて自己の歩みを止めるであらう。而して其の時こそは眞の世界が完成せられるのである。

併しながら現在に於ても世界革命は依然として遂行せられつゝあるのである。

吾人は一日も早く共産の神が罪の我土上に降下して、速にその理想を實現せられんことを祈らんとするのである。(笑聲、拍手)

吾々が我國に於て完全に社會主義を建設するであらうならば、是れは即ち世界革命の一構成分子としての任務を果したと言はれやう。支那に於ける國民革命軍が英國の帝國主義者を國外に放逐するであらうならば、之れも亦世界革命の一構成分子となるであらう。英國の炭坑夫が自國に於て政權を獲得するであらうならば、之れも亦世界革命の一構成分子としての職分を全うしたことゝならう。斯の如く世界革命は種々なる形式によつて進行し、凡有る方法を以て出現する。時としてそれが一時失敗と不成功に終るであらうとも、吾人は現在多くの世界革命の出來事に接觸して居るのである。只だ變人と盲目者のみが、出來事の眞の渦中に存在しながら、世界革命の動きを知らない許りである。(笑聲、拍手)。吾人は此等の出來事や、斯の如き奮闘を熟視する時に、列國の資本主義が如何に優勢になるとも、其の資本主義的機關の他の部分に於ては、絶えず世界革命の泉が力強く湧出しつゝあることを確信するが故に益々吾人の意を強か

らしむるのである。従つて他の國が我國に向つて公然と或は秘密に戦争準備をしようとも、吾人の態度は平然たり得るのである。吾人の事業は全世界の歴史的觀點より見て終局の勝利を得ること明かなるを信するが故に、吾人は將來如何なる出來事に遭遇するとも、決して恐るゝものではない。

諸君、戦争の危険、外國干涉の危険に就いて語る場合、吾人は此等の危険に對して何等絶對的の保障を持つてゐないのである。

吾人の完全な勝利の絶對的保障は、諸國に於ける労働階級の政權獲得であらう。とは言へ、吾人の同志の中には往々吾人に對し頗る不合理な論據の下に問題を提供するものがある。即ち世界革命が全然成功するか、若くはそれが成功せずして何等外國の援助を受くることを得ないか、兩者の一であらうといふのである。現に幹部反對派は彼の有名なる「一國に於ける社會主義問題」に關する論争に於て、労働階級が政權を掌握した國の國家的援助を得るやうになるか、然らずば吾人の滅亡か、何れかであると論じた。されど帝國主義者の我内政に關する武力的干涉について考へて見ても、兩極——即ち勝利を得たプロレタリア

トトの他の國から國家的援助を受けるか、若くは斯る援助を受くること能はずして、遂に吾人が滅亡するか——の間には、吾人存在の觀點よりするも、社會主義建設の觀點よりするも、大なる役割を演ずべき多數の階段がある。我國の階級戰當時、西歐羅巴の勞働階級は政權を握つては居なかつた。されど彼等は吾人に援助を與へなかつたか、多大の援助を與へたではないか。支那に於ては未だプロレタリアートの獨裁出現せず、全支那は國民革命政府の手に依つて統一せられて居らぬけれど、支那國民の偉大なる鬭争は吾人の事業に對して、貢獻する處無きか。英國の勞働階級は未だ政權を得てゐないのであるが、而かも既に卓越せる階級鬭争を試み、最近に於ては我勞働者並に職業同盟が支援した大罷業によつて全世界を驚かした、彼等の燃ゆるが如き鬭争精神と漸次増大しつつある革命化は吾等に取つて多大の援助であり、吾人の手に最強のチャンスと與ふものである。斯の如く吾等に對するプロレタリアートの援助は種々な戰線の地區に亘つて、凡有る方法で與へられるのであるから、世界のブルジョアジイは吾人に對して敢て進撃すべく決行し得ないのである。彼等は自己の後衛即ち

國內に於けるプロレタリアートの側より生ずべき不安を怖れて居るのである。

現時各國より我國に向つては種々なる代表者、殊にカトリック宗労働者の代表者さへも派遣せられて居る。獨逸に於ける非共產主義的労働者の間にも、既に共產主義に關する低微なる醜態は看取せらるゝ状態であるから、假りに獨逸の労働階級を我等に對しての戦争に押し出さうとしても、それは容易なことではない。例へ英國が自國內のプロレタリアートを我國との戦争の爲めに突き進めようとしても又その炭坑夫に我ソヴェートの労働者を射撃せしむべく命令を下さうとも、それは頗る困難なことであらうと考へられる。斯の如き事情は凡てブルジョアジーに於て良く理解せられてゐるのであるから、彼等は容易に我等に對して直接的開戦を決行し得ないのである。

世界の労働階級より吾等に與へらるべき援助は多種多様である。彼等の確實なる不平不満はその一である、闘争精神はその二である、集會や同盟罷業はその三である、プロレタリアの積極的叛逆はその四である、最後に労働階級の勝利は第五である。而して將來吾人が自己の事業を繼續し遂行して行く上に於て

労働者の國家的援助は吾人の爲めに必ずしも必要ではない。若し此くの如き國家的援助があるであらうならば、吾等は一舉にして凡ての敵に向つて總決算を爲し得るであらう、その時こそは吾人の勝利に對して絶對的の保障が得られるのである。併しよしんば労働階級の國家的援助がないであらうとも、吾人は尙且つ前途の鬭争に於て成功する上に、若干の保障を勝ち得るであらうと信ずる。斯の如き前途の事柄を豫じめ考慮し計算することは頗る困難なことであるけれども、併し吾人は少なくとも吾が労働者に對して、今や外國のプロレタリアトは皆吾々の味方であると同時に、ブルジョアジーにとつて大部分プロレタリアトである所の其の軍隊を、吾人に向つて動かすことは最も困難なことに屬するが故に、吾人の前途は益々有望であるといふことを陳述せんとするものである。

第二 敵の包圍中に於ける建設。

一 世界經濟に於ける社會主義と資本主義。

我國內的狀勢を述べんとするに當つて、その前に吾人は我國内經濟と世界經濟との相互關係を論じて、世界經濟が如何に我國の經濟を壓迫してゐるかを明かにしなければならぬ。此の問題を了解して置くときは、自然吾々の凡ての經濟行動が如何なる價值を有するものなりやといふことに就て充分會得し得るのである。余は前章に電氣聯合會長デイチ氏の演説を引用したが、それに依つて見れば彼は「我國の工業化」に對する眞面目な賛成者ではない。彼は親切にも吾國の輕工業發達を容認してゐるのであるが、生産要具の獨立的生產、重工業の發達進歩は全然之を希望して居ないのである。余は斯くの如く我國を壓迫せんとするデイチ氏一派の主張に對しては、勿論「工業化」なる標語を以て之に反對した。且つ將來と雖も、此の考へを以て熱心に對抗しなければならぬ。併しながら茲

に吾々と反對な理論が現出して來た。而かも最近開かれた第三インターナショナルの執行委員會擴大會議に於ては、殊に著しく反對派によつて論議し支持されたのであつた。勿論余と雖も近時我國と資本主義諸國との關係は益々發達國増大しつゝある事實を認むるものであるが、諸君は嘗つて同志トロツキーが「我は愈々資本主義的世界經濟に對して從屬的關係を持つ國家に變化するであらう、資本主義的世界經濟は益々明かに吾々をコントロールするやうになるであらう」と聲明したことを記憶せられるであらう。

併しこれは物の一面のみを觀た議論であつて勿論正確なものではない。余はさきに第三インターナショナル執行委員會擴大會議に於て此の議論の主要な誤謬を指摘した。反對派の同志等は我々の資本主義經濟に對する從屬性が益々成長増大して行くことは、それが直ちに吾人の獨立性の發達増大を意味するものであることを知らないのである。例へば吾人がより多くの穀物を輸出し、又より多くの機械類を輸入したりとせんか、之れは一見、吾人の從屬性の發達である。が併し、それと同時に我獨立性の發達をも意味するのである。如何となれば吾

人は輸入したる機械の力に依つて盛んに生産要具を製造し、金屬冶金工業に種々なる施設を加へ、以て我が重工業を組織的に改善し、鞏固にし、發達せしむることが出來、此の事柄自體に依つて吾人は資本主義的世界經濟より離るゝ獨立的基礎を築き上げ得るからである。尙反對派は種々吾々を論難してゐるが、就中、所謂「國家的局限」の觀點に立つ吾人を非難攻撃して居る。彼等の言ふ所によれば社會主義は全世界を目標として行はれなければならぬ、社會主義經濟は萬國的に建設せらるゝことを要し、計畫的に國際的分勞を行はねばならぬと主張して居る。例へば棉花の栽培に適する地方には棉花を栽培し、蜜柑の生長する地方には蜜柑を栽培する、即ち亞米利加には何々、獨逸には何々又某國には何々といふ風に、社會主義經濟はたゞ國際的分勞の基礎の上にのみ建設せらるゝものであると言つて、これと異つた考へを持つ者は「國家的局限」の主張に墮落したものであると斷定して居る。自給自足的經濟を確立せんとするもの、世界經濟と自分とを斷ち切つて「自分の町」に凡ての經濟的建設を試みんと欲し、斯の如き經濟的獨立について主張し奔走するものは、悉く守舊派であつて、マルキ

シズムやレーニズムの根本の何んたるかを了解し得ないものであるが故に、よろしく我々反對派の正論に引込まなければならぬと言つて居るのである。以上の所論に對しては吾人は次の答を以てするであらう。若し吾々が究極の經濟的理想は何であるかといふ問題を自身で考へて見るならば、それは全世界經濟の計畫的組織の完成であるに相違ない。従つて此の世界經濟に於ては正當なる分勞が行はれなければならぬこと勿論である。一度世界的分勞が實行せられた曉、ロシヤなり若くは其他何れかの國に於て鎖國を爲し、自給自足を企てたら時代後れであらう。併し吾人の問題とするところは此の點ではない、全く他に存するのである。即ち資本主義諸國包圍の中に在りながら、我國獨り社會主義を建設せんとして居ることが一である。次に——凡ての國家に於てプロレタリアートの獨裁が出現し、「最高世界經濟會議」が全世界の經濟を處置し、支配するであらう時に於て、吾人何を爲すべきかゞ問題である。後の場合に於ける吾人の任務は、産業を最も好適な地理的關係乃至氣候、技術、交通の關係及び其他の諸條件に合致せしめて、發達助長せしむること、換言すれば生産の地方

割當を實現せしむべく努むることであらう。併し斯の如き時期の到來は尙前途遼遠であるから、今茲に論ずるの必要はない。

現在の問題は斯の如き事柄ではない。現時に於ける世界經濟は遺憾ながら、プロレタリアートの獨裁下にあらずして、資本主義的ブルジョアジの支配下に在るのである。故に現在吾人は此の世界的資本主義經濟より離れて益々獨立的經濟を確立せんとして居るのであつて、又之を確立することに努めなければならぬのである。然るに吾人の斯の如き態度に對して反對派は「國家的局限」の非なるを攻撃して居るのであるが、もとより傾聴に値ひする議論ではない。吾人の唱へる獨立的經濟は即ち労働階級を主眼とする獨立的經濟であり、資本主義國家より離れんとする經濟的獨立である。

現代の情勢に於て、國際的分勞など、いふ大獨斷說に奴隸的奉仕を捧げ、我國の經濟的獨立の爲めの鬭争を忌避して、國際的ブルジョアジと協調せんとするが如きは、吾人の進まんとする「國際主義」ではない。ブーシキンの如き詩人は、好きなやうにしたがよい。(笑聲、拍手)

若しも吾々が、凡ての資本主義國家に於てプロレタリアートが勝利を得、獨裁を實現しても尙且つ我國は世界經濟から獨立しなければならぬと主張するのであるならば、吾々は實際排外主義者であり、國家主義者であるに相違はないであらう。併しながら今日に於ける情勢即ち資本主義諸國包圍の中に在つて、吾々が我が社會主義的國家の爲めに、成る可く大なる經濟的獨立を得んとして之を防衛し、プロレタリアート獨裁國の獨立性を一層大ならしめんが爲めに闘争を持續して行くことは、プロレタリアート世界革命主義者たる吾人の義務の遂行である。吾人の「國家的局限」に對して極力非難攻撃を加へて居る徒輩は、彼等の唱へる國際的「無制限」が資本主義世界との少なからざる制限關係なることを辨へずして、三本松の間を彷徨しつゝある人々である。(喝采)

諸君、それ故に吾人は資本主義諸國に對する吾々の從屬關係を巧妙に利用して、資本主義諸國に對する吾々の經濟的獨立性を益々増大ならしむることに向つて努力しなければならぬのである。或る論者は斯の如きことは決して實行し得られないと主張するのであるが、吾人は必ず成し遂げるであらう又決して不

成功に終らざるべきを確信する。吾人は資本主義諸國と經濟的關係を保持して行きながら、その關係を利用して我社會主義建設の基礎たる經濟的獨立の向上に努めねばならぬ。

我國家經濟と世界經濟との相互關係が喧しく論議せらるゝ際に、我が外國貿易の國營が我國に對して甚大なる貢獻をなして居るといふことについて、吾人は其の効果を認識せざるを得ないのである。從來若い資本主義國は、税關の障壁を廻らしてその競争者を防禦し、又斯の如くして、より強大な他の資本主義國の壓迫を耐へ忍んだのであつた。又自國內に豊富なる資源を持ち且つ經濟的發達と社會的建設とに適應する國民を有する資本主義國(例へば合衆國の如き)は、關稅を以て外國品を防ぎ其の間に自國の商品をして競争國の生産品に追いつかしめ、遂には之をも凌駕せしむるに至るのである。此の事については、嘗つて「資本主義發達の不平均」問題に關して討論せられたる時、余は詳しく述べて置いた。然らば我がソヴェート共和國は如何であるか。我國は關稅の形に於て現はされた社會主義的保護貿易主義を持するのみならず、尙それ以上のものであつて

現に行はれて居る外國貿易の國營を有して居る。外國貿易の國營は關稅政策より尙一層實際的な機關である。吾人は之に依つて輸入するも又輸入せざるも自由であり、且つ如何なる貨物と雖も、豫定の計畫に従つて經濟的に購求することが出来、恰かも一營利主體が振舞ふが如く自由自在に活躍し得るのである。斯の如き經濟鬭争上の防衛機關は、他の何れのブルジョアジー國家に於ても見出すことは出来ない。かるが故に此の外國貿易國營機關の有する特種な經濟的意義を研究することなくして、直に吾人は世界市場にコントロールされて居るといふが如き議論は絶対に不當なものであると考へる。勿論或る程度までは吾人も世界市場の影響の下に存在して居るのであるが、之れは何人と雖も否定しない、否、否定することの出来ないことである。併しながら茲には問題の特別な本質的方面を觀察しなければならぬと同時に、我國には未だ嘗つてブルジョアジー國家の持つてゐなかつた所の國營機關を有して居り、それが我國に對する世界經濟の壓迫を堪へ忍ばしめ持ちこたえしめる點に於て、大に貢獻しつゝあることをも、良く理解しなければならぬのである。

我國內に於ける資源は無限であるが故に、吾人は決して世界市場の壓迫を恐れるものではない。世界市場の壓迫は、却つて吾人をして勇奮せしめる。吾人は資本主義と建設中の我が社會主義との間に行はれる大競争に於て最後の勝利を得なければならぬのであるから、此等の壓迫に對しては善處して活動すべきである。世界市場の壓迫は吾人を鞭撻する鞭であつて、我國を滅亡に導く原因ではない。

將來我國と世界市場との相互關係を漸次改善するが爲めに、如何なる政策を取らなければならぬかといふ問題は、實に外國貿易の結果によつて決定せられるのである。

吾人は數年外國貿易に於ては支拂勘定であつたが、現在では遂に受取勘定となつた。之れは吾人の計畫的豫算が眞實であり、的確であつたことに起因して居る。一九二六—二七年度の我外國貿易輸出額は豫算に於て前年の六億六千八百萬留に對し、七億六千三百萬留と計上せられて居る。即ち前年の輸出額に比して十四%の増加である。然るに一方輸入に於ては九・九%の減少を見た(巨額の

信用による輸入額を除外して、斯の如きは實に吾人にとつて重要なる成功の一つであつて、今日より推せば將來に於ても亦かゝる可能性は見られ得るのである。吾人は今日まで豫定の計畫に従つて活動することを習得したのであるから、今後の外國貿易に關しては適當なる政策を施すことが出来る。而して若し戦争が突發することなく又カーメネフが貿易人民委員であつた當時に行はれたるが如き過失が、將來發生しないであらうならば、吾人の成功は更に大なるものがあるであらう。

二 長足の進歩。

是より國內の状態について説明せんとするのであるが、先づ第一に我經濟的建設に關係を有する問題、就中我國工業化の問題について陳述するであらう。従つて之に關する數字を擧げて、我國の産業が如何に發達進歩せるかの度合ひを示さなければならぬ。

一九二三—二四年度に於ける年生産額即ち工業と農業の年生産額を土臺とし

て其の増加を述べれば、一九二五—二六年度に於ける農業生産高は二七・六%の増加、工業生産高は一二〇・七%の増加であつた、而して一九二六—二七年度の國家計畫委員會査定數字を一九二三—二四年度に比すれば、農業生産高に於て三四・四%、工業生産高に於て一五二・八%の増加を示して居る。即ち以上の計數に依つて見れば、我が工業に於ける發達の速度は農業の發達速度より遙かに速かであり、我工業の水準は高められたといふことが明かになるのである。

國家計畫委員會の發表した工業生産高に關する査定數字は、實際よりも餘程内輪に見積られて居るのであつて、我工業生産高の實際的増加速度は想像以上である。此の事柄は吾々が事實的材料を根據として作製した見積書によつて證明することが出来る。反對派スミルガの直接指導によつて編成せられた國家計畫委員會の大工業生産高に關する數字は一九二六—二七年度に於ては前年度に比し一五・六%の増加を發表したが、最高國民經濟會議は之を幾分増加する必要を認め一八・六%と計算した。即ち我が最高國民經濟會議は工業生産高の豫想に關しては國家計畫委員會に比して遙に樂觀的な數字を計上して居るのであるが、

これは「將來に於ける實際」に餘程接近して居るものと考へられる。然るに工業計畫委員會の案が愈々決定する時には更に此の割合を増加して二〇・六％に引上げた。斯の如く比較的短時日の間に於て、我が工業發達の豫想は、一五・六％より二〇・六％になつたのである。

併し、現在は既に此のプランを實行し始めてから、茲に數ヶ月を經過したのである。若し例證として十月と十一月との成績を擧ぐるならば、工業計畫委員會の決定した最大限度を既に突破して、二一％以上に達して居る。之を前年の十、十一の二ヶ月に比較するときは、三〇％以上の増加に當つて居るのである。斯の如き状態であるから、我が工業計畫が完全に實行せられ工業生産品の總額が精算せらるゝに至らば、工業計畫の決定した數字を遙に超過するであらうことは明かである。即ち反對派の豫想は裏切られ就中同志スミルガを長官とする國家計畫委員會の豫想は實際の數字に超過せられて全く覆へされたのである。嘗つて此の豫想に關しては我黨内に論争が行はれたのであつたが、現在の事實と照合して觀察することは頗る興味ある問題と言はねばならぬ。

吾人は本年度のみならず、次年度に於ける吾々の計畫豫算について觀察するであらう。即ち一九二七—二八年度に於ける國家計畫委員會の査定數字について見るに、スミルガの斷定によれば、我工業生産額の年増加率は五%以内であると言つて居るが、現在本年の經驗を基礎として計算するならば、一九二七—二八年度に於ける増加率は五%以内ではなく、最小限一二乃至一五%に達するであらう。嘗つてスミルガは一九二五—二六年度の豫想に於て一九%の増加を發表したが、事實に於ては四〇%の増加を見たのであつた。一九二六—二七年度の豫想についてスミルガは一五%の増加を計上して居るのであるが、事實は既に二〇%以上に上りつゝあるのである。又一九二七—二八年度に對してスミルガの計算は五%以内であると豫想して居るのであるが、吾人は一二乃至一五%であると考へて居るのである。斯の如く計畫の實行、工業化の實際的テンポ、總生産額の増加は事實に於て我が反對派の悲觀的豫想を全然覆へしたものと云ふべきであらう。

更に工業化の實際については、分類して説明しなければならぬ。余は先に、

農業及び工業の發達に關する計數を諸君に提示したが、此の數字より見るときは、我國の一般經濟界に於ける工業の役割は、益々増大しつゝあることを知ることが出来る。若し重工業と輕工業に於ける發達の相互關係を點檢するならば、此の問題は實に精しく理解せらるゝのである。一九二四—二五年度に於ける重工業の比重は、之を其の生産額増加率の計數を以て現すならば四一・三%である、一九二五—二六年度は四四・六%に上り、一九二六—二七年度に在りては四五・六%を示して居る(前年に比し重工業は二四・九%を増し、輕工業は一七・三%を増加す)。由是觀之、工業の範圍に於て重工業發達の速度は輕工業のそれより遙に速かであるといふことが分かるのである。而して此の比重の變化は更に國營工業と私營工業並に手工業とを比較して考察しなければならぬのであるが、今茲に私的資本工業と手工業を總括して其の比重の變化を見るときは、一九二三—二四年度に於て、私的資本工業と手工業の生産額は工業總生産額に對して二七・七%を占めて居つたのであつたが、一九二五—二六年度に至りては一六・九%となり、更に一九二六—二七年度に於ては一五・三%と推算せらるゝのである。換言

すれば一般工業界に於ける私的工業と手工業の比重と地位とは絶えず下向きとなつて下落しつゝあるに拘らず、一般工業界に於ける國營工業の比重は之に反して益々上騰しつゝあるのである。要するに、此の社會階級の觀點より見るときは、社會主義的の國營工業が私的工業や手工業に比較して、より迅速なる速度を以て進歩發達するであらうことは勿論である。

三 社會主義の建設的基礎の發達。

我國經濟界に於ける工業の比重(農業に比較して)、重工業の發達(輕工業に比較して)並に國營工業と私的工業、手工業との比重については前述したるが如く、

—— 三方面の凡てに於て全く満足すべき成績を收めてゐるのである。我國工業化の問題に關聯して二三の實例を擧げやう。先づ我國の農業用機械の製作は、既に戦前に於ける水準を突破して一二三%となつてゐる。之れは我が工業が農業に向つて回轉したといふことを意味する。我國に於ける工業化の對村落關係は、他の資本主義國に於けるが如きものと全く異なつた性質を有するものであ

つて、我が工業の立場は農業に接近せねばならぬのである。此の方法を以て農業の發達を助長し、村落を向上せしめなければならぬ。言葉を換へていへば、工業は農業の社會主義的改造を促す所のカとならなければならぬのである。次に一九二六—二七年度に於ける蒸氣タービンの製造高は、之を前年に比すれば七五%の増加を示して居る。又一九二六—二七年度に於ける蒸氣々罐の製造高は前年に比しその増加六六・六%である。又電氣工業は既に戦前の状態より遙かに優良な成績を示して居り、電力業も亦大なる進歩をなして居るのである。

以上別個に説明したるが如く、最近共産黨大會に於て決議した經濟に關する基本命令は、着々實行せられつゝあるのである。

工業化に關する一般問題と離すべからざる事柄は、資本の問題である。勿論工業發達の速度は、その年生産總額の高低のみに依つて推測せらるべきものではない。正規的條件を具へて居る場合に於てのみ、生産額の多少に依つて發達の速度を推測することが出来る。併しながら我國の現状に於ては、生産總額の増加率(六〇%、次に四〇%、それから二〇%に下り翌年度は一五%となつてゐる。

るは、我が工業化の實際的速度に適應してゐないのである。であるから若干の識者は次の如き質問を發するのである、工業發達の速度は著しきものであると發表して置きながら、年々歳々その速度は減少しつゝあり、始め六〇%の増加率でありしものが、四〇%となり更に下つて二〇%となりしが如きは明かに非常なる下向きではないか？此等の事情は一體如何なる原因によつて起るのであるかといふ質問である。工業發達の速度は、正規的條件のある場合に於ては勿論第一にその生産高の高低によつて算定し得らるゝといふことは前述した通りであるが、併し吾々の事情は之と全く異なつた立場に置かれて居るのである。我が復興時代の當初に在りては今迄閉鎖して居つた所の凡ての製造工場を解放して就業せしめたのであるから、其の生産總高は實に莫大なものであつた。斯の如くにして漸次復興事業が進むにつれ、今度は工場を新に設けるとか、道路を開くとか、その他凡有る點に於て、新規な施設を行はなければならなくなつたのである。之に對しては更に大資金を必要とするのであるが、當時の事情はその實行を許さなかつたが爲めに、今日に於ては、往日準備せられたる固定資

本を利用して生産したやうな年生産額の迅速なる増加率は遺憾ながら得られな
いのである。生産は順調なる時代に在りては固定資本の増大と相平行して、増
加するものであり、生産と資本との間には或る程度まで一定の割合が存在する
のである。併し我國に於ては此の割合は全然破壊せられたのであつた。

茲に工業の發達に就て考へんとするに當り、前以て固定資本が如何なる状態
であるか、又我が資本の構成は如何なるものであるかを研究することは、吾人
に取つて最も重要なことであらねばならぬ。今數字を擧げて之を示せば、一九
二三—二四年度に於て投下された資本の金額は二億二千五百萬留であり、一九
二四—二五年度に於ては三億八千五百萬留、一九二五—二六年度に於ては七億
八千萬留、一九二六年—二七年度に於ては九億四千七百萬留である、之れに電
氣事業費として計上せられたる金額を加ふるときは實に十一億留に達する。即
ち此の十一億留は本經濟年度に於ける我國の資本的構成である。而して此の中
には新設せられたる生産機關三百七十四個が含まれて居り、その價格總計は(完
成せる状態に於て)十億五千五百萬留である。

尙以上の外、住宅建設に要したる資金(一部分は前記九億四千七百萬留の中より支出され、他の部分は別項目より受取るべきもの)をも計算に入れなければならぬ、一九二五—二六年度に於ては之れが爲め二億四千八百萬留を支出し、労働者二十八萬二千人に對して新住宅を建設した。又一九二六—二七年度に於ては更に労働者三十六萬一千八百人の要求を満足せしめんが爲め住宅建設資金として豫算に計上せられたる金額は三億一千五百五十萬留である。斯の如きは實に我國の建設にとつて一大成功と云はねばならぬ。若し吾々が最近數年間に於て(内亂時代にありては何等新施設を試みる事が出来なかつたが爲めに、經濟的見地より見れば頗る消極的であつた)實行したる所の諸事業に就て考ふるならば所期の目的は益々堅實なる地歩を辿つて達成せられつゝあるのである。最近に於ては「シヤツウルスカヤ」發電所と同様なる規模の大發電所を十ヶ所に建設した。又「カシールスカヤ」に於て六個の發電所を擴張したる外、目下四個の發電所は建設中である。而して「コンミューン」發電所は約二十五個竣工を告げた。金屬工業にありては最近新に七大工場を設け、その中若干の新工場は八千萬留以上の建設

費を要したのである。電氣工業に於ては新に六個の工場を建設し、石炭業にありては既に七十六個の豎坑竣成を告げ、目下大豎坑十九、小豎坑九十七の工事が開始せられて居るのである。石油業に於ては五個の製油工場が建設せられ、織維工業にありては新に十一個の工場が既に作業を開始して居り、建設中に屬するもの十七個ある。その中一工場は亞米利加式の施設を有した大仕掛けのものであるが、近くモスクワ附近に於て其の作業を開始するであらう。化學工業に於ては新に十二個の工場が建設せられ、建設中に係はるもの同じく十二個ある。その他新敷設鐵道の延長は一千五百キロメートルに達し、五都市には電車の開通を見た。殊に注目し値ひすべきは農産物の加工工場として、小仕掛けなりとはいへ、新に六十二個を建設し、四十七個の農業倉庫を新設したことである。

余は我國の建設事業が如何に具體的に進捗しつゝあるかを示さんが爲めに、以上に於て具體的の數字を諸君に提示したのである。併しながら、今日迄吾々の努力した新施設は單に初歩たるに過ぎないのである。若し吾人が過去數年間に於て吾人の存在は今日まで約十年であるが、其の中建設に従事し得た年限は

比較的僅かであるにも拘らず建設したることを想ひ起し、又吾人が今日こそ漸く固定資本問題の解決に着手したることを想ひ起し、更に又戦時共産主義時代に於て、我が労働力の低下せる當時を回想して、今日の状態を一九一九—二〇年の「労働戦線時代」と比較するならば吾人の達成と功績は偉大にして顯著であり、何人と雖も直に首肯するであらうことを確信する。

四 富農問題。

是より余は我が經濟政策に於ける若干の根本問題について述ぶると同時に、之と關聯せる黨内の異論に就て説明しなければならぬ。然し此等の問題は今日までに討論し盡され可なり退屈な事柄であるから、至極簡単に説明することとする。それにしても、吾々と反對派との間に於ける意見の相異については大略を明かにしなければならぬ。凡そ都市と村落との關係問題は吾々にとつて、經濟的並に政治的中心問題である。我が工業化の形式は決して資本主義國家に於ける工業化と同一視してはならぬのであるといふことを先づ諸君に告げんと

欲するものである。我國に於ける工業化が他と特に異なる點は、即ち我が工業化は村落を破壊する槓杆ではなくして、農村を助ける所の槓杆であることである。それは中農を破壊すべき方法ではなくして、却つて農業を振興せしむべき槓杆であり、又槓杆であらねばならぬのである。我が工業化は中農階級を破壊し、プロレタリアート化して、内地の市場を資本主義的に利用するものではない、自己の農民的基礎即ち農業の利益を助長せしめるといふ根據に立つて、農業を指導して行くやうに仕組まれて居るのである。

レーニンは都市と村落との關係について、吾々は農民の爲めに資本家が生産したよりも、安價な値段を以て生産し、此の根據の上に兩者の結合を鞏固にしなればならぬと言つて居る。然るに反對派を代表する同志プレオブラゼンスキの所論は「吾人は自國の工業を發達せしめんが爲めに、今より多く農民から取り立てねばならぬ」といふのである。反對派諸氏の主張する議論は、常に種々なる理論的推定と多くの豫言から出發して居る。彼等の言ふ所によれば、若し彼等反對派の農村政策を實行するにあらざれば、必然の結果として商品飢饉は

益々其の鋭さを増して出現するであらう。而して我工業は必要の程度に發達すること不可能なるが爲め、増大する需要を充たすこと能はざるに至るであらう、而して此の商品飢饉の結果としては凡有る政治的紛糾と之に關聯した色々な困難が發生するに違ひないと説いて居る。

反對派の言ふ第二の豫言は次の如き要領である。即ち彼等は吾々に向つて斯く言ふのである、「諸君(幹部派)は農村に於ける階級闘争を良く了解してゐない、又諸君は吾々の考へて居る以上に、富農階級が多大の役割を演じつゝあることを知らない、又諸君は必要なる部分を除外して、たゞ不必要なる部分の事情にのみ通曉して居るのであるから、必ずや所謂『經濟的誤算』時代に發生したるが如き經濟的恐慌が再現するであらう」と言つて居る。當時同志カーメネフは「富農は吾人を抑制せり」といふ標語を一般に擴がらしめた。其の時カーメネフは一つの經濟計畫の遂行を豫想したのであつたが、富農が穀類を隱匿して、賣らないので其の結果、反對派は餘儀なく自己の輸出計畫を變更し一方輸入計畫を減少すると共に生産計畫をも減少せざるべからざる状態に立ち至つたと言つた。當時

反對派は富農がプロレタリアートに對して「穀類のストライキ」を實行し、遂に彼等の計畫を破壊したと言つた。

然るにその當時より既に一ケ年を経過した現今に於て事實は果して如何であるか。現在に於ては商品飢饉は其の姿を隠くし、穀類の買上げ作業も亦順調に進捗して居るのである。是れより少しく我が經濟的主張が實際に於て如何なる効果を擧げたかといふことについて事實を擧げて證明するであらう。若し現時の經濟状態を、彼のカーメネフ時代、即ち富農が吾人を「抑制」せりと言つた時代に比較するならば、先づ第一に吾人は商品飢饉を征服したる點に於て、贏得た成功を高唱しなければならぬであらう。吾々は商品飢饉の襲來に出會することなく、却つて其の緩和を見たのであつた。之れは幾多の事實が其の實際なることを説明するのであつて、先づ現在に於ける我が生産品の増加は此の事實を裏書するものであらねばならぬ。反對派のスマルガー派のものは工業の部門に於ける我々の主張を看破し會得することが出来なかつた。それであるから余がさきに諸君に示したるが如き實際上の數字は、彼等の賢明なる豫定數字を超過し

たのである。之れより他の事柄に轉ずる。吾人は昨年度に於て豫定したる數量よりも多くの内地棉花を買ひ上ぐる事が出来た、而してその數量は豫定が九百三十萬布度であつたに拘はらず約一千萬布度を集め得たのである(内地棉花は我が紡績工業に要する原料の全數量に對し五四%を占めて居る)。其の他米國に於て棉花の恐慌が発生したる際、吾人は安い値段で比較的多量の棉花を買ひ占める事が出来た。當時の値段は二十留乃至二十一留であつたが、今日となつては更に十二留五十哥までに慘落して居るのであつて、約半分の値段に近き下落であるから未曾有のことに屬する。(茲に注目し値ひすることは、最近獨逸の工業家が斯の如き好適な相場は再び棉花市場に現出せざるべきを豫想し、向ふ三ヶ年間分を今日の値段にて買占めたことである)。

前述せるが如く棉花の蒐集と買占めとは最も良好に進捗したのであるから、我が紡績工業は之に依つて多大な仕事を爲し得る譯である。従つて今年の綿織物生産高は豫想を超過して二億メートルに達するであらうと考へられる。國家計畫委員會は綿織物生産の部門に於ける本年度の不足高を三億メートルと計算

して居るのであるから、その中三分の二は本年度の製造高によつて償ふことが出来るのである。斯くの如くにして吾人は此の最も重要なる工業に改善を施し漸次成功の緒に就きつゝあるのである(吾が農民は紡績工業に於ける第一の消費者である)。以上の事實を見ても商品飢饉は實現せざりしのみならず、却つてそれが緩和したことが明白である。斯の如く我が工業は漸次發達し、外國貿易も亦良好なる成績を得たがため、吾人は遂に窮狀より脱出することが出来たのである。而して商品飢饉が現出するであらうといふ反對派の豫言は、見事事實に依つて覆へされたのであつた。

棉花の蒐集と比較して、優るとも劣らざる意義を持つて居るものは、穀類買上げ作業に於ける吾人の成功である。然るに反對派は吾人の買上作業は必ず不成功に終り瀕死的危険に遭遇するであらうと豫言した。實に反對派に取つては穀類買上げ作業の問題はクラーク(富農)問題の偽名に過ぎないのであつて、自餘の問題、例へばソヴェート議員選舉に關する問題や産業組合政策、課税政策等に關して彼等の主張する根據は、恰かも富農が非常なる勢ひを以て増大し、富農

を抑制するは吾人にあらずして、富農が吾人を抑制するのであるといふ假定的事實に出發して居るのである。

尙反對派の言ふ所によれば、吾人は今日迄富農の増大に對して何等の防禦手段を講じてゐなかつたし、又講じてゐない。さすれば富農は昨年度に於て非常に増大して居らねばならぬ譯である。若し反對派の理論が正當であつたならば、吾々の本年度に於ける穀類買上げ作業は、昨年比して一層大なる困難に遭遇しなればならなかつたのであつた。又それが爲め吾々の計畫は昨年よりも尙著しき程度に於て富農側より破壊せらるべき筈であつたのである。

然るに事實は如何であつたか？吾人は計畫の豫定數字と比較するのみに止まらず、實際の經驗に徴して穀類買上げ作業の成功を證明し得るのである、今實際に於ける經過即ち買上げ開始より十二月二十五日までの作業に就て述べれば、一九二五—二六年度に於て十二月二十五日まで實際に買上げたる數量は三億一千八百五十萬布度であつた。而して本年度に在りては四億三千五百萬布度の買上げを爲したのである。之を前年度に比すれば、その増加の割合は實に三六・五

%に相當して居るのであるが、蓋し少なからざる數量といふべきである。之に依つて見れば買上げ作業の結果は反對派の言ふ所とは全然異つて居ることが分るのであつて、反對派の豫想に従へば買上げ作業は不結果に終るべきであつたが、事實は昨年よりも良好であつて、三六・五%の増加を見たのである。眞實をいへば昨年度は豫算の不熟練によつて聊か不成績に終つたのであるが、本年度の成績は反對派のカーメネフと我派のニコヤンとの間に於ける計數の相違が、事實として現はれたのであつて、即ち實に三六・五%の増加である。

穀類買上計畫實行のテンポも亦良好であつて、例へば本年九月に於ては計畫に對して一二五・四%の實行を爲し、十月に於ては一二七%、十一月に於ては一三九・二%の實行を爲し得たのである。言葉を換へて言へば、買上げ作業の實際は吾人の計畫豫算よりも遙かに超過したテンポを以て實行せられて居るのである。

諸君、以上に述べ來つた所のものが、吾が穀物買上作業に於ける經過であるが、之に依つて見るならば、經過それ自身が他の何ものよりも、より多く反對

派の主張する經濟政策の眞の根柢を覆へし得たのであるといふことが分るであらう。然らば吾人の行つた穀類買上作業の經驗から如何なる事柄が結論せらるゝかといふならば、第一、富農の側より吾々を抑制するといふ理論を覆へしたことである。富農が吾々を抑制するといふ事は實際に當たらぬ事であつて、吾々が富農を抑制するといふことが眞理であつた。何となれば吾人は富農と闘争し之を壓迫することが出来るからである。

第二、穀類市場に於ける吾人が孤立無援であつたかのやうに言ふのは當らない。吾人が穀類市場を征服し得る状態にあつたといふのが本當である。吾人は私的營業者を市場から驅逐した、我が買上げ作業は順調に進捗し、買上げ機關の政策は確實に奏効した。併し昨年度に在りては我が機關の凡ては同一場所に時を同じうして出現したのであるから、價格を法外に吊上げたことは事實であつた。要するに穀類市場を征服することは、我が經濟活動に於て最も重要な事柄であると同時に、我が經濟政策の達成と勝利との爲めに必要な手段であると言はねばならぬ。

第三、吾人は勞銀とチェルノーネツツ相場に影響を及ぼすが如き、農産物價格の季節的騰貴を豫防する保證を得たことである。過ぐる秋期に於て賣惜しみを爲し、價格のスペキュレーションを試むるものはなかつたのであるから、來るべき春期に於ても亦穀類の暴騰はないであらうと確信せらるゝのである。總勘定の政治的結論は、吾人の穀物買上げ作業の實際は反對派諸氏の懐ける經濟的政策を完全に覆へしたといふことである。

第三 成長の困難。

一 村落の改造と失業者問題。

余が前述し來りしことは我經濟界に於て既に達成せられたる事柄や、その積極的事實のみであつたが、是よりは他の方面即ち現時の建設時代に横はれる困難と此の困難より流れ來る任務とに就いて少しく述べんとするものである。先づ第一に余は吾人の眼前に横はつて居る大なる凡ての困難は一見各々別種の困難の様に見ゆるであらうとも、終局に於ては都市と村落、即ち勞働階級と農民との相互關係といふ根本問題に歸着するのであることを、諸君の前に高調し極説しなければならぬのである。例へば我が外國貿易の國營若しくは我國の對世界經濟關係の問題を見ても、此等は皆勞働階級と農民即ち都市と村落との關係に最も密接なる接觸を持つて居るのである。若し國營貿易を保持し之を確立せ

んとするに當りて、吾々が外國の生産する品物よりも、より高價に生産するときは、直ちに農民の間に於ては、吾々に對しても又國營貿易に對しても面白からざる感情を惹起すること明かである。

又他の一例として物價問題を取つて考察して見るならば、此の問題が直接たると間接たるとを問はず、労働者と農民との關係に觸れて居り、都市と村落の問題であるといふことは明かであるが故に、此の點は何人と雖も了解に苦しきものであらう。

第三の例としては、現在我が工業が原料の缺乏によつて苦んで居る事實を擧げねばならぬ。羊毛、皮革、棉花の如き工業用原料は現在非常なる缺乏を告げて居るのである。之れが對策を考究する場合、此の問題も亦結局都市と村落即ち工業と農業との關係になつて來るのである。

最後に一見全く都市の問題であるが如き失業者問題について考察してもこれ亦都市と村落との關係である。如何となれば、失業者の大衆は皆村落より都市に向つて流入し、之れが對策は兩面より講じなければならぬからである。對策

については後段に述べんとするのであるが、勿論主力は村落の側に注がねばならぬ。換言すれば、その土地に失業者を固着安定せしむべき事業を起し、村落の餘剰人口を到底吸収することの出来ない都市に赴かしめぬ方策を講じなければならぬのである。

經濟計畫の問題、生産原價の問題、商業網の問題、賃銀の問題等の如き幾多の問題も亦同じく都市と村落との相互關係に關聯して居ること明かである。今日に於ける我が經濟界の問題は、如何なるものも、直接、間接、終局に於ては都市と村落即ち勞働階級と農民との關係といふ經濟的中心問題に觸れてゐるのである。而して此の問題は經濟的中心問題たると同時に、又政治的中心問題ともなつたのである。即ち凡てのものが集まり來つて纏れるところの結び目である。

余は先づ失業者問題より説き起さなければならぬ。現在我がソヴェート聯邦には失業者の大軍が存在する。余の計算にして誤りなくんばモスクワ一縣のみで、失業者の數は十八萬人に達して居る。全國の統計を取るならば、更に驚くべき

數字に達するであらう。而して若し失業者の中村落より來るものが、其の幾%を占むるかを明瞭にするならば、それが大部分であるに相違ない。失業者軍は主として村落の方面より都市に襲來し、益々増加しつゝある。即ち村落に於ける貧農階級や過剩人口若くは所謂農業移民の如きは主として此の失業者の大軍に加はりつゝある状態であるから、若し失業者軍が今日迄増加したるが如き勢ひを以て、將來益々増加するであらうならば、急激に發達しつゝある我が工業と雖も近き將來此の大軍を消化吸収することは到底出來ないのである。

失業者問題は、今やそれ自身の急迫なる意義を擴大しつゝ、吾人の眼前に横たはり之れが解決を待つて居る。それであるから、我が外國居住者即ち立憲民主黨や帝政主義者やメニセヴィキーさへも失業者問題について特別な注意を拂ふに至り、最近に於ては雑誌「ソツイアリスチエスキ、ガエストニツク社會時事」に之に關する一論文が掲載せられて居る程である。

然らば失業者問題の解決策は如何といふに、今日迄我が反對派は單に此の問題を煽動的に取扱ひ、一方面よりのみ之れが解決を試みんとし、大に工業を發

達せしめて、失業者を吸収しなければならぬと主張して居る。併しながら對策は兩方面より講じなければならぬのである。其の一は即ち村落に事業を起し過剰人口に適當なる仕事を與へるといふことでなければならぬ。之れが爲めには茲に凡有る部門に亘れる農業の振興問題が発生して來るのであるから、吾人は農業に於ける各部門の間に勞力の正當なる分配をなすといふ見地に立つて、農業の振興問題を研究しなければならぬ。穀類の耕作地方に於ては益々耕地面積を擴げて生産高を増加するに努め、他方に於ては機械や肥料の力を藉りて穀物以外の農作物を作つたり、牧畜業を發達せしめたりしなければならぬのである。勿論農民をして、其の土地に固着安定せしめんが爲めには、決定的方法を必要とするのであるから、之に關聯して發生すべき問題は勞働價值ある栽培物と農業の生産的經營の獎勵である。例へば球根の植付け、野菜栽培、園藝牧畜、烟草栽培等の如き、凡て穀物以外の農業は、其の種子や肥料を改良し、其他凡有る方法を以て生産化に努め、村落に斯の種の栽培を獎勵しなければならぬのである。而して斯の種の栽培が増加すれば、その發達に伴つて多數の農民は各自

に生産的職業を得ることになるのである。我が輸出貿易の部門に於ても其の取扱ひは依然として舊慣を墨守して行はれて居るが如くに考へらるゝのであるから、若し輸出的可能の観点より考察するならば、農業殊に園藝業や野菜栽培の發達は重大なる役割を演ずることが出来るのである。勿論之が爲めには一定の豫備作業は必要である。例へば農産物製造工場を新設して罐詰となすべき野菜、果物の乾燥装置を施すが如き、或は産業組合を根據として農村の工業化を計る等、苟くも之が奨励に關しては吾人は凡ての方法を講じて一層の努力を續けなければならぬのである。此の事柄は凡ての點より見て最も重要なことである、失業者救済の観点より見ても、又輸出貿易の振興、農業の工業化、並に農業大衆を吾人の味方に引き入れる點より見ても頗ぶる重要なこと、言はねばならぬのである。

尙此の外に棉花の如き特種作物の栽培を、益々發達せしめなければならぬといふ任務が吾人の前に存在して居る。棉花の栽培には農業の合理化といふ観点から見て人工的灌漑事業の役割は多大なものである。然るに現在に於ては此灌

溉事業が多額の費用を要する點に就いて非難する人もあるが、併し吾人は現在國家權力の手中にある灌漑事業は、農業の團體化に裨益すること大なるを忘れてはならぬ。

二 工業と其の原料産出地。

次に余が述べんとする第二の困難は原料問題であるが、我工業の發達するに伴ひ吾人は常に原料の不足に直面する。

我内國産原料の植付や取引は年々増加するばかりである。例へば棉花の栽培面積について見るに一九二五—二六年度は一九二四—二五年度に比して三十%の増加であり、之を戦前の栽培面積に比較するときは九十八%に相當して居る。亞麻の栽培面積は前年度に比し二十%増加し、戦前の面積に比較すれば、その八十八%に當つて居る。又麻の栽培面積は前年度に比し二十七%増加し、既に戦前の面積を超過して一二四%となつて居る。

斯の如く内國産原料が増産するにも拘はらず、我工業は非常なる速力を以て

發展しつゝあるが故に、常に原料の不足を感じて居る。殊に不足の甚だしきは羊毛、皮革、棉花の三點である。吾人は多數の皮革新工場を建設したが、原料不足の爲め何等働くことが出来ない、又我纖維工業は大に發達しつゝあるのであるが同じく充分なる原料の供給地を持つてゐない。其の他亞麻、製油原料、麻等凡て我工業に必要な原料は悉く不足して居る状態である。

諸君、余は此の點に關しても反對派との意見の相異を紹介しなければならぬ。概要を言へば、反對派は現時農業經濟に關して何等顧慮するの必要はないといふ觀點に立つて居るのであつて、一圖に工業の發達に努力を集中し、依つて以て社會主義の基礎を作るべしと主張しつゝあるのである。併しながら事の實際は吾々の社會主義と吾々の工業とは、後衛たる農業の貧弱に苦しむで居るのである。試みに考へても、棉花の原料なくして我紡績工業を發達せしむることは困難なことである。又羊毛の原料なくして、毛織物工場を經營して行くことは到底不可能なことに屬する。茲に於てか、工業と農村經濟との間には密接にして離すべからざる經濟關係の存在するを知り得るのである。であるから我工業

の爲めに原料を供給する農村經濟に對しては、特に深甚なる考慮を拂はなければならぬ。若し假りに穀物の値段が亞麻や麻や製油原料等の値段より高値であるとしたならば、農民は亞麻等の植る付けを停止するであらうから、之等の物價政策及課稅政策は共に相當考慮せられなければならぬ。又工業品の値段と農産物の値段との間にも常に相當なる均衡が必要である。一朝此の均衡にして破壊せられんか、耕地の減少となり、引いては工業に必要な原料品の缺乏を來たすことゝなるのである。

諸君、斯の如き状態であるから原料品問題は實に吾人の眼前に横はる重要問題中の一つであると言はなければならぬ。而して此の問題は結局都市と村落との相互關係に展開するのであるから、吾人の政策が反對派の主張と合致し得ないこと亦餘儀なき次第である。

三 物 價 政 策。

諸君、余は是より物價問題に就て説明するであらう。此の問題は我が經濟政策の中心問題である。物價に關する問題は凡有る觀點より重要な意義を持つて居るのであつて、我が一般經濟界發達の觀點より見るも、又工業自身の觀點より見るも同じく重要性を帯びて居る。吾人の發達如何は一に懸つて物價政策に存するのであつて、勞働階級と農民階級との相互關係といふ觀點より見るも、將た又工業勞働者の文化的向上の觀點より見るも同じく重要なものである。我が國に於ける一般文化の向上發達も、物價政策の如何に關係するのである。斯の如く凡有る觀點より見て、物價政策は我が凡ての政策に對して第一義的役割を演じてゐるのである。

諸君、余の手許には現在物價の變動に關する多くの數字があるが、一々之を諸君に提示するの煩を避けて、茲には其の中重要な比較表のみを示すこととする。

物價(財政人民委員部及び國家計畫委員會の材料)

卸賣指數(一九一三年を一〇〇とする)

小賣指數(一九一三年を一〇〇とする)

(註)ロシヤの年度は十月—十二月を第一期、一月—三月を第二期、四月—六月を第三期、七月—九月を第四期とする。

一九二五—二六年度 第一期 第二期 第三期 第四期

卸 賣 指 數 一七八・二 一九一・七(増) 一九二・三(増) 一八〇・六(減)

小 賣 指 數 二二〇・七 二三二・八(増) 二四四・一(増) 二三二・三(減)

一九二六—二七年度 十月一日 十一月一日 十二月一日(一九二六年)

卸 賣 指 數 一七八・八(減) 一七八・二(減) 一七七・八(減)

小 賣 指 數 二三〇・〇(減) 二三四・〇(増) 二三五・〇(増)

「銜」 (工業品と農産物との価格の値開き。農産物価格を一・〇〇とし、それに對する工業品価格を示す。)

一九二五—二六年度 第一期 第二期 第三期 第四期

卸 賣 指 數 ニヨル 一・二二一 一・〇〇九(減) 一・一二二(増) 一・二七(増)

小 賣 指 數 ニヨル

一九二六—二七年度

十月一日

十一月一日

十二月一日(一九二六年)

卸賣指數ニヨル

一・三三〇

一・三三一(増)

一・三三二(増)

小賣指數ニヨル

一・三三三

一・三三〇

一・三三一

我黨が物價引下を極力高調せしにも拘らず、今凡ての生産品(工業品並に農業生産品)の小賣指數を見るに、最近卸賣指數に於ては若干の低下が認められるけれども、小賣指數は却つて昂騰しつゝあるのである。而して最近に於ては所謂「缺」の開き、即ち工業品の價格と農産物の價格との値開きは一九二三年秋に於ける恐慌時代に較ぶれば、比較的微弱なりとはいへ、漸次累進的となり、益々増大しつゝある状態を示して居る。斯の如き状態はそれ自身に經濟的又は政治的危険を包藏するものであるから充分なる監視を要する。而して現下の状態は奇妙な状態となつて居るのである。我工業は農業に比して迅速なる歩調を以て發達しつゝあるのであるが、併し「缺」の開きは依然として増大しつゝある。又我が工業は急激に發達し従つて卸賣値段は低下したにも拘らず、他方小賣値段は上向いて居る状態である。而して此の小賣値段によつて多くの勤勞階級は生産品

を購買して居るのである。三ヶ年間に於て國營工業の卸賣値段は三六%方低下したのであるが、同じ期間に於て小賣値段は僅に三%の低下を示したに過ぎない。卸賣及び小賣値段の問題は果斷を以て解決しなければならぬ。

吾人が今日迄凡ての大工業と、大部分の市場即ち卸賣商業及び小賣商業を自己の手中に掌握したことは明かな事實である。只だ其の中、比較的少ない程度に小賣商業を握り、比較的大なる程度に卸賣市場を掌握して居るのであるが、兎に角市場を占有して居ることは事實であるから、吾人は商品取引を統御することが出来る。工業に於ても亦商業に於ても吾人は實際上の獨占者である。それに卸賣値段は下落したるにも拘らず、又小賣値段引下の爲には種々なる手段が講せられたにも拘らず、一向にそれは下落してゐない。であるから一體如何なる理由に基いて小賣値段は下らないのであるか、卸賣と小賣との間に於ける差額は何處に消え失せ、何處に沈澱するのであるかといふ問題に逢着するのである。又吾人としても卸賣と小賣との値段は之を低下せしむる爲めに充分な手段を講じたのであるか、之れが爲め尙ほ何等かの手段を施すべき餘地はないの

であるかといふ疑問を懐いて居るのである。而して斯の如き問題の凡てに答へ、現時の状態を明にせんとせば、吾人の意見としてはどうしても、我が國營工業に於ても、國營商業及び産業組合に於ても、そこには國家に對し隠された所の利益があり、その利益は當該管理機關に沈澱して居るといふ結論に到達せざるを得ない。此の結論に到達せずしては、現時の状態を説明することは出来ない。と考へられる。然し此の隠れた利益は、各機關が誤魔化して居るのではない。利益の或る部分は指導者たる上級國家機關及び黨の機關に通知することなく、私かに「計畫」以外の擴張に充當せらるゝのである。即ち工業の場合、利益はバランス・シートに於て利益として記帳せらるゝことなく、「資本の鎖却」なる項目に計上せらるゝのであつて、而かも事實に於ては組織の擴大となり、附屬機關の建築となり、或は工業的企業の新計畫となるのである。而して此の如き生産の擴張は當該管理機關の表面上の計畫には何等發表せられてゐないのである。

國營商業と産業組合に在りては、斯の如き計畫プラン以外の擴張は、尙一層大なる程度に行はれて居るであらうと思はれる。工業に於ても、又國營商業、産業組

合に於ても、我が國家の會計機關に發見せられない隠れた利益が残り、その利益は種々なる虚偽の名目の下にその機關の擴張費となり作業の擴大に振り向けられるのである。併し斯の如き事柄に對しては一害あれば一利があるといふ觀念を以て、自らを慰め諦める外ない。非合法的手段は不可なりとは言へ、その手段に依つて工業建設備が擴張せられたとすれば、それは即ち確かに工業的施設であつて——一定のプラスである。併し實際プラスは存在して居ても、マイナスがプラスを超過して居る状態である。

四 獨占的供給について。

然らば何故にマイナスがプラスを超過して居るかといふことを説明しなければならぬ。吾人が物價政策に就て考慮し始めてから既に多くの歳月を經過して居るのであるが、一九二三年トロッキ一派と第一回の討論を行つた際、或者は我が經濟政策中には吾々が經濟生活の各種部門に於て獨占者であるといふことから招致される一つの危険が伏在して居ると指摘した。勿論労働者獨裁によ

り支配權を掌握し、それに由つて労働階級が國家を漸次社會主義の方向へ導くといふことは、自體甚だ結構なことである、又労働階級が自己の掌中に凡ての支配權を握るであらうことは頗る結構なことである。生産の方面に於て又市場の方面に於て、殊に大工業の部門に於て、労働階級が獨占的狀態を保持し得ることは實に偉大なるプラスと云はなければならぬ。之れこそ眞に社會主義の建設に於ける基本的前提條件であつて、何人も疑ふことの出來ない平凡な眞理である。此の眞理に反對するものは我が共產黨員たり、國際共產黨員たるの名譽を傷つけるものであるから、速に黨外に驅逐すべきである。凡そ良い事柄は何時までたつても、同じく良い事柄であり得るのであるが、併し時の経過に従ひ何等かの讓歩が餘儀なくせられて、此の良い事柄からも、いつしか種々な弊害が発生し、事態をして益々複雑ならしむる困難を生ずるものである。

諸君の知らるゝが如く、資本主義的獨占^{モノポリ}制度は即ち一種の強奪であつて、此の制度は人民の凡ての經濟生活が大資本家の集團の手中に掌握せられて居るところを意味するものである。獨占權を有する資本家は、生産物を絶えず改善する

ことに就て努力すべく外部から何等の刺戟や衝動を受けないから、其の生産品を安價に販賣することに努めない。一度び獨占權を握れば彼等は直に欲するが儘に高價な値段を付けて、之を一般消費者に押し付けるのである。

茲に於て諸君は、諸君をして安心せしむべき大なる試みは、非資本主義的プロレタリアートの獨占制度であらねばならぬと言ふことを肯定せらるゝであらう。吾々としては市場に於ける獨占的狀態を利用して、生産品に高價な利益多き値段を付け、そのまゝ之を販賣するが如きことは到底出來ないのである。斯の如き行爲は寧ろ反對派の「理論的」辨證に近いものとなり得るであらう。即ち反對派の理論は斯うである、「工業は吾々が社會主義を行ふ基礎であるが故に出來る丈け速に之を發達せしめなければならぬ。利益が増加すればする程工業は迅速に發達するのであつて、高價なる値段を付ければそれ丈け利益は増加せらるゝことゝなる。高い値段は利益の増加を保障するものであるから、その利益を他の新しき施設の爲に投下し、更に工業を發達せしめ以て、速に社會主義を建設すべきである」と唱へて居る。併しながら之をプロレタリアートの立場から考

察するならば、極めて奇怪なる觀念であると云はなければならぬ。

余は斷言するであらう。反對派の主要なる誤謬の一つは反對派が確かに斯の如き主張を持つて居ることに存すると。同志プレオブラゼンスキの著作に係る「新經濟政策」中には「吾人は獨占的傾向を有する資本主義の相續者であるといふ事を見逃してはならぬ」と述べて居る。「此の獨占的傾向の資本主義は專賣の方法を以て過當な利益を收得した『プレオブラゼンスキ』は結論して言ふ——であるから吾人としても資本主義に『讓步する』必要はない。吾人は『相續者』であるから、資本主義より少くなく、否より多くの利益を收得しなければならぬ。但し過大な利益を得んとすることに就て吾々と資本主義社會が有する目的の相異は、吾々は社會主義建設の爲めに利益を得んとするのであつて、資本主義の爲めではない、又プロレタリアート獨裁權を鞏固ならしめんが爲めであつて、資本階級の爲めではないといふ點にある。」前述した凡てが即ち反對派の有する理論である。

併し悲しいかな、此の理論は實際に於て誤つて居る。吾人は自ら自分の頸を

挫くことを好まない以上、到底斯の如き政策を實行することは出来ない又實行する必要はないのである。第一單に經濟的觀點から見ても、高い値段を以て生産品を一般消費者に賣り付け、利益を擧ぐればそれ丈け蓄積の度合ひを増大せしめ益々工業の發達を招來するものであるといふが如き觀察は、何等の價値をも有せざる謬論であり不正確なものと云はざるを得ない。如何となれば都市と農村との間に貨物の循環を迅速ならしめるならば、究極する處比較的速に工業を發達せしめ得ることゝなるからである。若し此の循環が迅速に行はるゝとすれば、假令普通以下の値段を以て販賣しても、その利益は多大であらう。勿論商品の一個當りは比較的安價であらう。併し事業を整備して、商品の實質を改善し、資本が敏活に回轉するに至らば、個々の商品より收得する利益は假令僅少であらうとも、年の收益總額は必らず増加するに相違ない。此の點が彼我の間に存在する意見の相違である。

それ故に吾々の觀點よりすれば、吾人が専ら實現せしめんとして居る事柄は、良好なる商品を生産して、之を安價に販賣し、多大の利益を收得すると同時に、

資本の回轉を敏活ならしめ、極力工業の發達促進を期して居ることである。然かも其の半面に於ては、農産品の加工業を杜絶せしめて農村を破壊するが如きことなく、農業と工業との正當なる均衡を保持し、都市労働者と農民とを益々鞏固に結合せしむると共に、プロレタリアートの工業とプロレタリアート自身が有する指導的役割を一層堅固ならしめようとするのが、吾人の希望である。

併しながら物價の問題は、他の半面に於ても大なる重要性を持つて居る。吾々の社會と資本主義社會との發達状態は、根本的に相異つて居る。此の事は資本主義社會に於ける「古典」時代の工業的資本主義に就て考ふるならば直に了解せらるゝのである。資本主義制度の下に在りては、競争は改良と向上に對する主要なる衝動であつて、自らを勵まし他を驅逐するものである。若し甲が高價に賣り之に反して乙は安價に販賣するならば、乙は市場に於て甲を凌駕し勝利を得るのである。併し此の自由競争の「黄金」時代は過ぎ去つて、資本主義的獨占制度が之に代つた。而して獨占制度は、一面、營業費や其の他の費目に於て著しく支出を減少せしめ、資本家に莫大なる利益を與へた。併しながら他面、既に

腐敗の要素が醸成せられて居るのである。資本家が一度び独占権を手中に掌握すれば、其の生産品を改善せしむべく彼等を鞭撻する鞭や刺戟は何處かに消え失せて、此の點から資本主義の腐敗は漸次増大するのである。

五 勤勞者たる消費者への奉仕。

我國に於けるプロレタリアト的独占制度は、如何なる状態であるか？我國に於ては自由競争なるものはない。然らば我工業を改善發達せしむべく吾人を刺戟するものは何であるかと言へば、余は労働者と農民との大衆が生産を改善せしむべく吾人を刺戟するものであると考へる。若し我々が仕事に緊張せず、欲するがまゝの値段を以て商品を販賣し、而かも之に對して何人も抗議しないならば、我々は必ず腐敗するに相違ないであらう。併し我が工業發達の具合は全く他と異なつて居り、特種の事情が存在する。労働者の希望する所は「安價なる良品を買ひ度い」と云ふことであり、農民も亦「安價なる良品を買ひ度い」と希望して居る。我黨は常に此等大衆の聲を聞くに努める、即ち「どうしたのだ、何が

不満であるか？今少し經濟戰線に壓迫を加へては如何であるか？生産の改善を工業家に向つて促進しては如何うであるか？と。斯の如く我等を進歩改善せしむべきものは競争といふ刺戟ではなく、全く他のものである。

然り、大衆の持つて居る消費力の成長は、結局吾々を動かす力である。若し吾々が生産關係に於て大衆に對する奉仕を怠るならば、其の結果は直ちに大衆の消費力に惡影響を及ぼすであらう。

併し翻つて考ふるに、凡ての共產黨員や凡ての生産者と雖も、大衆の消費に對しては充分なる觀察と敏感とを持つて居らぬ。而かも獨占狀態であればある程、生産機關を簡易化し、合理化し、之を改善して工業の發達を促進せしむることが充分に出來ないといふ一つの危険がある。又吾々が抵抗の最も少ない方向、即ち最大限度に生産品の價格を引上げんとする方向へ進み度があるといふ危険を伴つて居るのである。然るに反對派の經濟的理論に於ては、斯の如き危険を豫想してゐないのであるから、我々の爲めには實に有害な主張と云はねばならぬ。我黨は斯の如き反對派の主張に對しては極力鬭争しなければならぬので

ある。

我黨としては生産機關並に産業組合の機關に大衆が直接干與するやう、労働者と農民の前衛を之に引き込むことに努めなければならぬ。現下の状態は困難であり、吾等の前途には尙ほ爲すべき幾多の仕事が存在して居るのであるが、併し兎に角商品の取引機關や生産機關をして、今一層經濟的且つ合理的に活動せしむることは最も緊要なことに屬する。現在我國に於ては二つの獨占がある、即ち第一は價格の獨占であり、第二は品質の獨占である。併し遺憾ながら、生産品の品質は粗惡なりと云はざるを得ない。近時消費者は漸次増加し、多年の經驗によつて巧者になつて居るが故に、粗惡品は之を購買しないといふ風潮になつた。此の消費者の態度は全く正當である。既に我が工業の若干の部門に於ては所謂「滯貨」が現れて居る。或る者は之を以て恐慌の襲來であると言ひ、或る者は商品販路の杜絶を意味する前兆であると言つて居る。然し實際のことを云へば、此の「滯貨」は、消費者が成長増加したが爲め、粗惡な商品は吸収するを好まぬといふことの證據である。それ故に粗惡な商品を生産する部門に於てのみ

「滞貨」が生じて居るといふことは、蓋し當然なことであると云はねばならぬ。此の點に就ては特に考慮すべき必要があると思ふのである。

物價の引上げを主張する根據には、二つの偏見が存在して居る。物價の引下げを實行するに至らば、恰かも工業の迅速なる發達は望まれないかの如くに若干の人々が考へて居るのは即ち第一の偏見である。併し余け之れと反對に斷定して居るのである。彼等の判斷によれば、卸値段は原價並に其他所要の經費に依つて決定せられ、利益の分量を決定するものであるから、如何にしても卸値段の引下を實行することは出來ないと云つて居る。殊に原價は吾人の受取るべき價格を決定するものであるといふことを盛んに主張して居るのである。併し物價構成の全作用の中から、原價は一般物價の水準に關係して變動を免れないと云ふ半面的事情を見逃してはならぬ。若し生産機關にしてその生産品を安價に販賣すべき義務を感ずるに至らば、一時多少の不平は懷いても、結局原價の引下は實現せらるゝに至るであらう。即ち物價に對する外部からの壓迫は原價をして低下せしむべき有力なる刺戟であることを知らねばならぬ。故に斯の如

き刺戟を等閑視し、原價の引下について何等考慮せざることは、吾人の取るべき道ではない。

凡有る人間殊に精神的に立派な人間であつても、又共產主義者であつてさへも、常に抵抗の最も少ない方向へ進出すべき傾向を持つて居る。爲すべき義務を負はされざる仕事は、遂行する必要がないと人間の大部分は思つて居るのである。勿論斯の如きは人間に取つて讚めた話ではないのであるが、而かも客觀的事實であることを否定し得ない。であるから吾人は少なくとも各人の良心に訴へんとするのみならず、爲さざるべからざる事業に對しては、粉骨碎身之を遂行せしむべく、人間の意思を強制する必要があると考へるのである。

第二の偏見は何であるかと云へば、所謂消費者的觀點に立つて居る我々を非難攻撃すること、これである。攻撃者は消費者の要求に應じて生産的對策を講ずるが如きは、低級なる消費者的觀點であるといふ見解の下に、常に消費者なるものを或る程度まで輕蔑してかゝつて居るのである。而して消費者の觀點でなく、寧ろ生産者の觀點に立たなければならぬものであると云つて居る。

併し、斯の如きことを云ふ人々は、此の場合に於て消費者的觀點は生産者的觀點と最も密接なる關係を持つて居ることを忘れて居るのである。如何となれば若し生産並に販賣機關が消費者より出来る丈け多く儲けんとする主義を以て消費者に望むであらうならば、此の動機は直にその生産事業の主要なる彈機はねを強打して生産を獎勵し、之に向つて全力を集中せしむるに至るからである。併しながら斯の如き取込み主義を吾々が實行するとすれば、消費者の或る者は恐らく吾人の顔面を打擲するに違ひない(笑聲)。凡そ消費者に對して高所より輕蔑的態度を以て望むことは、獨占的資本主義に基く偏見である。而かも斯の如き偏見を、非合法的に我がプロレタリアト獨裁の時代に擴充せしめんとするのは奇怪なことゝ云はねばならぬ。吾國の産業は消費者の爲めに營むものであつて、産業を營むが爲めの消費者ではない。此の間の區別は最も慎重に觀察しなければならぬのである。新經濟政策は將來の利益を考慮する以前に、先づ大衆の需要や消費に就て考慮し、生産を決定する點に於て、舊經濟政策と異なつて居るのである。大衆の需要如何は、將來の利益問題よりは、一層多くの重要性

を持つて居るのである。

物價の低下、卸賣値段の低下、並に小賣値段の低下に關する防衛的鬭争は、現在に於ける一大政治問題である。「鋏」の問題、「鋏」の刃の開きの變化、生産の合理化、原價の低下、商業網の合理的建設等に關する問題は、凡て吾人の死活問題とまでは行かずとも、少なくとも吾人の生活的福祉に重大なる關係を有して居る問題の實體である。余は重ねて言ふ、物價の引下げと此の物價政策とは、現時に於ける根本的經濟問題であり、政治問題であると。

六 官僚主義との鬭争。

余は更に歩を轉じて物價問題に影響を及ぼす他の方面を解剖して論ずるであらう。吾人は今日迄幾度となく官僚主義との鬭争を強調したのであるが、併し官僚主義の主要なる根源と其の危険が先づ獨占状態の下にある經濟機關から發生するといふことに就ては未だ一般的に充分なる理解がない。即ち獨占状態にある經濟機關に於ては、上下を擧げて何等の努力を爲すことなく安逸をむさぼ